




CHUKYO UNIVERSITY Graduate School 2021

中京大学大学院案内





建学の精神

梅村学園の建学の精神の要約は「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」である。すなわち学術の場では学術の研鑽と共にシントルマンシップ・トレーニングと醸成陶冶するスポーツの場では健康の増強、心技の練成と共にスポーツマンシップを体得するスポーツマンシップ・イズ・シントルマンシップ・スポーツマンシップとは、ルールを守るニベストを尽くす三チームワークをつくる四相手に敬意を持つこの四大綱を内容とする。

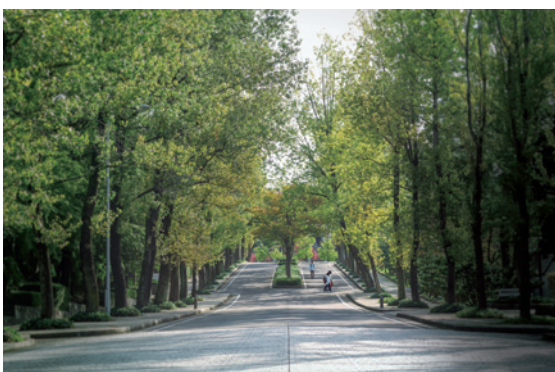
このような精神の体得者は個人としても、家庭人としても、社会人としても国民としても、世界人類の一人としてもまことに望ましい人間である。

このような教育は如何なる国の如何なる時代においても肯定され歓迎される本質を有する。

梅村学園はこの建学の精神と教育の基盤として永遠に堅持高揚を期する。

一九八八年二月十八日

学校法人 梅村学園
 総長 梅村 清明



中京大学大学院は 中部地区屈指の文系・理系9研究科を擁する 総合大学大学院です

文学研究科	日本文学・日本語文化専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P. 8
	歴史文化専攻	修士課程	P.10
国際英語学研究科	国際英語学専攻	修士課程	P.12
	英米文化学専攻	修士課程	P.14
心理学研究科	実験・応用心理学専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.16
	臨床・発達心理学専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.18
社会学研究科	社会学専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.21
法学研究科	法学専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.24
経済学研究科	経済学専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.27
	総合政策学専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.30
経営学研究科	経営学専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.32
工学研究科	機械システム工学専攻	修士課程	P.35
	電気電子工学専攻	修士課程	
	情報工学専攻	修士課程	
	工学専攻	博士後期課程	
スポーツ科学研究科※	スポーツ科学専攻※	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.42
学位授与件数・研究支援			P.46

※2021年4月、体育学研究科体育学専攻をスポーツ科学研究科スポーツ科学専攻に名称変更予定。

中京大学大学院の教育研究上の目的

文学研究科

文学研究科並びに日本文学・日本語文化専攻及び歴史文化専攻の人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

文学研究科は、日本の文学及び言語並びに歴史に関する広範な専門知識を身に付け、それを高度情報社会の中で適切に活用し、生起する諸問題に実証的に対処することのできる、高度専門職業人及び研究者を養成する。また、職業人や研究者として高い倫理観を持ち、社会生活において適切かつ模範的な言動が取れる人材を養成する。

日本文学・日本語文化専攻

■博士前期課程（修士課程）

長い歴史をもつ日本の文学や言語を研究しながら、移りゆく流行の奥にひそむ、不易な価値や本質を追究している。こうした追究を通して、あるべき日本の伝統的文化を明確に自覚し、継承するとともに、後代の者に伝えてゆくことを教育の目的とする。その目的を達成するため、日本の文学や言語に関する広範な専門知識を身に付け、各種の情報を正確に理解した上で、的確な日本語で自身の考えや思いを表現でき、さらに優れた日本語運用能力やコミュニケーション能力を活かして、教育や行政、企業等の諸業種において、指導的な立場で活躍できる人材を養成する。

■博士後期課程

日本の文学や言語の研究をいっそう深化させ、あわせて隣接分野も俯瞰しながら、その普遍的な意義を追究してゆく。こうした追究を通して、日本の伝統が育んできた価値観や美意識をあきらかにし、現代的視点から改めて位置づけてゆくことを教育の目的とする。その目的を達成するため、人文学の諸領域における高い専門能力と古今の文献の活用能力を身に付け、日本文学、日本語学、日本文化及び漢文学の分野において高度で独創的な研究を行うことができる人材を養成する。

歴史文化専攻

■修士課程

日本の歴史文化に関する広範な専門知識及び史資料の読解力を有し、その知識・能力をもって史資料や史跡を今の時代に保存・管理・活用する者として、あるいは広く歴史や伝統を踏まえた地域社会の発展を推進する者として、博物館その他の社会教育、自治体史編纂、まちづくり、学校教育、出版、観光などの場において、指導的な立場で活躍できる人材を養成する。

国際英語学研究科

国際英語学研究科国際英語学専攻及び英米文化学専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

国際英語学専攻

■修士課程

国際英語の視点に立ち、英米の英語や文化への偏重姿勢を超えた新しい国際的視野をもつ英語教育者を養成するこ

と、及び、そのような英語教育者の養成に自ら貢献しうる国際英語学研究者を育てることを目的とする。また、現代の国際化する企業組織や国際団体等で求められる多様な専門知識や技術を獲得するとともに、汎用性を有する高度な英語力と異文化に対する深い理解や柔軟な対応力を有する国際人の養成を目的とする。

英米文化学専攻

■ 修士課程

国際英語の観点も視野に入れた高いコミュニケーション能力を有するとともに英米文化に関する専門性を持った高度専門職業人・企業人、研究員を養成することを目的とする。文化研究コースでは、旧来の英文学専攻に見られる文学偏重を排し、英米の音楽・映画等の現代文化も題材にして多面的な英米文化研究を目指す。また、言語研究コースでは、実際の言語運用の側面にも配慮した研究・教育を行う。こうした専門教育に加えて、実践的英語運用能力の向上を配慮した科目を配することで高度な専門知識を備えた国際人の養成を目的とする。

心理学研究科

心理学研究科実験・応用心理学専攻及び臨床・発達心理学専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

実験・応用心理学専攻

■ 博士前期課程（修士課程）

基本的心理過程に関する学識を有し、その応用により快適で安全な人間環境系の設計に寄与する専門的実務者又は学術研究者の養成を目的とする。実験心理学領域では、実験・測定・解析等基礎と応用を繋ぐ多様な方法に精通した人材を養成し、応用心理学領域では、基礎研究の成果を踏まえ、現実的諸問題の解決を可能にする心理技術を修得し、社会的要請に応じて専門的実務に従事する人材を養成する。

■ 博士後期課程

人間の基本的な心理過程を解明するとともに、その応用によって快適で安全な人間環境系の設計に寄与する学術研究・教育者又は高度専門的実務者の養成を目的とする。実験心理学領域では、人間の基本的心理過程を解明する先端的研究を推進する人材を養成し、応用心理学領域では、現実的諸問題の解決を可能にするための心理技術の高度化を行うとともに、社会的要請に応じて諸問題を解決する人材を養成する。

臨床・発達心理学専攻

■ 博士前期課程（修士課程）

心理学全般にわたる広い学識を有し、適応事象の基本を身につけた専門的実務者又は学術研究者の養成を目的とする。臨床心理学領域では、心理的適応の困難な個人又は集団に対し適切な援助を行う人材を養成し、発達心理学領域では、重要な発達研究法である観察・面接・質問紙調査等を駆使した行動の発達過程の追跡及び分析を通して、現実社会で生起する諸問題に対して適切な提言を行う人材を養成する。

■ 博士後期課程

人間全般にわたる広い学識を有し、適応過程を解明するとともに、適切な援助を与えることのできる学術研究・教育者又は高度専門的実務者の養成を目的とする。臨床心理学領域では、適応、人格、心理査定等に関する基礎的研究

及び臨床事象に関する研究に従事するとともに、適切な心理臨床を行う人材を養成し、発達心理学領域では、人間の生涯にわたる発達を体系的に解明するとともに、発達の諸問題に対して適切な提言を行う人材を養成する。

上記目的を達成するため、両専攻・各領域の連携及び協力を推進する。

社会学研究科

社会学研究科社会学専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

■博士前期課程（修士課程）

社会学及び隣接諸科学の専門知識を深く修得させるとともに、現代社会に生起する諸現象、諸問題を分析し、洞察する能力を培うことを目的とする。また、「専門社会調査士」資格の養成のための教育をはじめ、フィールドワークにもとづく研究・教育を重視し、専門的実践的能力及び調査研究に求められる倫理性を育成することによって、行政機関、専門機関、企業等において専門的な業務を担当できる人材を養成する。

■博士後期課程

社会学の諸領域および隣接諸科学の専門知識を体系的に修得させ、各専門分野の研究を自立的に遂行できる能力を培うことを目的とする。専門的学識を充実させるための研究指導とならび、調査研究を組織し指導するために求められる専門的実践的能力の育成を重視し、大学・高等教育機関等の研究・教育専門職をはじめ高度の専門的業務に従事できる人材を養成する。

法学研究科

法学研究科法律学専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

■博士前期課程（修士課程）

法律学及び政治学の専門的知識、特有の思考方法、問題解決方法の研究を行い、教育することを目的とする。そして、本課程の教育研究を通じて、広い視野に立って、法律学及び政治学の精深な学識を授け、研究能力又は高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を有し、さらに、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークを作る」）、他者の存在及び意見を尊重する（「相手に敬意を持つ」）人物、そして、このような人物になるための最善かつ不断の努力を決して惜しむことのない（「ベストを尽くす」）人物を養成する。

■博士後期課程

法律学及び政治学の専門的知識、特有の思考方法、問題解決方法の研究を行い、教育することを目的とする。そして、法律学及び政治学について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、さらに、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークを作る」）、他者の存在及び意見を尊重する（「相手に敬意を持つ」）人物、そして、このような人物になるための最善かつ不断の努力を決して惜しむことのない（「ベストを尽くす」）人物を養成する。

経済学研究科

経済学研究科経済学専攻及び総合政策学専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

経済学専攻

■ 博士前期課程（修士課程）

専門教育を通じて以下に掲げる人材の養成を目的とする。

- ① 経済学の新しいパラダイムの構築に資することのできる研究者
- ② 国際的に貢献できるエコノミスト等
- ③ 高度な専門学識を通じて学問研究と社会の結びつきに資する専門職業人
- ④ 出身国ならびにわが国の発展と相互友好のために活躍できる外国人研究者

■ 博士後期課程

博士前期課程（修士課程）に掲げたものと同一であるが、特に、それらの目的を自立的に遂行できる能力を培うための論文作成指導を徹底し、より高度な経済専門研究者および職業人を養成することを目的とする。

総合政策学専攻

■ 博士前期課程（修士課程）

教育研究の目的は、第一に、学部段階において当該専門分野に関する基礎的な資質や能力を修得した者を対象として、より高度な専門知識や実践的能力、研究能力を培うことであり、第二に、既に政策立案や政策管理に関する実践現場において、高度な専門性が求められる職業を担っている人材の再教育機能を果たすことである。特に、総合政策学専攻博士前期課程では、公共政策や地域政策、経営政策などに関して当該専門分野に関する高度な理論的知識や実践的能力を修得し、研究能力あるいは高度の専門的な職業を担うための卓越した実践的な能力を持つ人材を養成する。

■ 博士後期課程

教育研究上の目的は博士前期課程に掲げたものと同一であるが、特に、高度な研究能力と豊かな学識に裏打ちされ、新たな知見や価値を創造できる能力を身に付けて企業経営や行政機関、教育研究機関など社会の多様な場で中核を担う人材を養成することを目的とする。

経営学研究科

経営学研究科経営学専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

■ 博士前期課程（修士課程）

グローバル化・情報化・学際化の流れの中で、高度の専門職職業人の養成、国際的人材の育成、さらに専門的研究者の養成を図ることを目的としている。経営学及び隣接諸科学の専門知識を深く広く修得し、企業及び様々な組織における諸現象・諸問題を分析し、洞察する能力を持った人材を育成する。

■博士後期課程

知の集積拠点としてその役割を高めていくことに教育目標を絞り、専門的研究者の養成を目的としている。グローバル化や科学技術の進展に伴う社会の変化に対応できる人材の養成を行うために、分野横断的に知識を修得させ、能力を高めるとともに、経営学に関する多様な先端的研究の知見を教授することによって、広い視野と理解力を有する研究者を育成する。さらに、経営学の専門的知識、思考方法及び問題解決方法を修得し、学術研究・教育者あるいは高度専門実務者となる人材を育成する。

工学研究科

工学研究科並びに機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、情報工学専攻及び工学専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

工学研究科は、工学の専門的な技術と知識を身に付け、それを製品及びシステムの設計・開発に応用できる高度専門技術者及び研究者を養成する。また、学会発表、共同研究等の対外活動を通して、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力に秀でた人材を養成する。さらに、技術者・研究者として高い倫理観を持ち、職業人としての立場を強く意識できる人材を養成する。

機械システム工学専攻

■修士課程

人間生活を豊かにするため、機械技術、情報技術及びシステム技術の基盤技術を総合的に使って、社会の要請に応える創造性に満ちた「ものづくりのための研究」ができる高度専門技術者を養成する。具体的には、機械装置やロボット等の研究開発を行う「機械技術系分野」、制御システムや知的マシン等の研究開発を行う「情報技術系分野」、生産システム等の研究開発を行う「システム技術系分野」の3つの分野の技術者を養成する。また、研究計画を立て自由な議論を行いながら研究を行い、事実に対する観察・調査・問題発見能力、指導力、プレゼンテーション能力及び報告書作成能力を持つ人材を養成する。さらに、起業家精神を有し、経営・管理運営に能力を発揮する人材及び新技術・新産業分野の開拓に能力を発揮する人材を養成する。

電気電子工学専攻

■修士課程

数理的かつ綿密な思考力と電気電子工学の専門知識を持ち、自己表現及び対人関係力に優れた、応用力のある高度専門技術者を養成する。専門知識は、細分化、先鋭化された1つの分野に限ることなく、共通の基盤的知識に重点を置き、幅広く電気電子工学応用に精通する人材を養成する。また、デバイスとシステムのように異なる専門領域に強みを持つ人材の養成を重視する。具体的には、デバイス、電子回路、組込みシステム等の研究開発を行う「エレクトロニクス分野」、ロボット、制御システム等の研究開発を行う「制御・メカトロニクス分野」、無線通信システム、電波応用機器等の研究開発を行う「通信・電波分野」、情報システム、画像応用機器等の研究開発を行う「情報・画像分野」、電力システム及び電気機器等の研究開発を行う「電気分野」の5つの分野の技術者を養成する。

情報工学専攻

■修士課程

数理的な思考力とハードウェア、ソフトウェア及びメディア・データ処理の専門知識を持ち、システム設計構築、運用管理のできる高度専門技術者を養成する。具体的には、インフラストラクチャ系システムの設計構築や運用等に

関わる「情報システム分野」、画像応用や知識情報処理分野での高度なアプリケーションソフトウェアの設計や実装を行う「ソフトウェア開発分野」、さらには、これらのシステムを基盤としてコンテンツ開発や配信及びそれらのシステムを扱う「情報メディア分野」の3つの分野の技術者を養成する。

工学専攻

■博士後期課程

工学分野の主要領域である「機械システム工学領域」、「電気電子工学領域」及び「情報工学領域」の3領域を教育・研究の対象とし、各領域のスペシャリストとして深い専門知識を持ち、自立的な活動を行う研究者や先端的な製品の基盤となる新技術の開発ができる高度専門技術者を養成する。「機械システム工学領域」では、機械技術、情報技術、システム技術等機械システム工学の幅広い知識・技術を身に付け、高度な「ものづくり」のために様々な分野・技術を統合化できる人材を養成する。「電気電子工学領域」では、エレクトロニクス技術、制御・メカトロニクス技術、情報・画像技術、通信・電波技術、電気技術等電気電子工学の幅広い知識・技術を身に付け、人間生活を豊かにする製品の設計・開発ができる人材を養成する。「情報工学領域」では、情報システム技術、ソフトウェア開発技術、情報メディア技術等情報工学の幅広い知識・技術を身に付け、周辺領域の様々な知識・技術を統合して新しい製品やシステムを開発できる人材を養成する。また、個々の領域の専門性を追求するだけでなく、情報技術を共通の基盤に持ちつつ、他領域の特質や領域間の関係を理解し、他者との協調の下、より広い視点から新しい工学技術を創成できる人材を養成する。研究指導においては、専門領域における課題発見能力、高度な研究遂行能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力及び論文作成能力に秀でた人材を養成するとともに、研究者及び高度専門技術者としての役割や責任を理解し、高い倫理観を持って行動できる人材を養成する。

スポーツ科学研究科[※]

スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

■博士前期課程（修士課程）

体育学・スポーツ科学・健康科学の領域における専門知識を修得させ、博士後期課程に進学して体育学・スポーツ科学・健康科学研究の専門職を目指す人材を養成するとともに、指導力向上を志す社会人の再教育を行い、高度の技術と指導力を備えた人材を養成する。

■博士後期課程

体育学・スポーツ科学・健康科学の領域における専門知識を修得させ、体育学・スポーツ科学・健康科学研究を自立的に遂行できる能力を培い、高等教育機関や研究所等において教育研究職に従事できる人材を養成する。

※2021年4月、体育学研究科体育学専攻をスポーツ科学研究科スポーツ科学専攻に名称変更予定。



沿革

- 1973年 4月 文学研究科国文学専攻修士課程設置
- 1982年 4月 文学研究科国文学専攻博士課程設置
- 2009年 4月 文学研究科国文学専攻を日本文学・日本語文化専攻に名称変更

概要及び特色

本専攻では、日本の文学や言語を研究しながら、移り行く流行の奥にひそむ不易な価値を追究しています。こうした追究を通して、日本の伝統文化の美意識を明らかにし、それを後代に伝えてゆきたいと念じています。この目標を達成するため、日本文学はもとより、広く日本語文化に関連した研究に対応できる陣容を整えています。

教育課程

*以下は2020年5月時点の情報です。

博士前期課程（修士課程）

講義科目

古典文学特論ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB、ⅢA・ⅢB、ⅣA・ⅣB、
近代文学特論A・B、日本語学特論A・B、日本語文化特論ⅠA・ⅠB、
ⅡA・ⅡB、ⅢA・ⅢB、ⅣA・ⅣB、漢文学特論A・B、国語教育特論A・B、
書道特論A・B

演習科目

古典文学演習ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB、ⅢA・ⅢB、ⅣA・ⅣB、
近代文学演習A・B、日本語学演習A・B、日本語文化演習ⅠA・ⅠB、
ⅡA・ⅡB、ⅢA・ⅢB、ⅣA・ⅣB、漢文学演習A・B、書道演習A・B、
研究指導1～4

修了要件

1. 指導教員の研究指導8単位（ただし、各セメスター2単位）を含め、合計32単位以上修得すること
2. 修士論文を提出しその審査及び最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（文学） Master's Degree, Letters

博士後期課程

講義科目

古典文学特論ⅠA・ⅠB・ⅠC、ⅡA・ⅡB・ⅡC、ⅢA・ⅢB・ⅢC、
近代文学特論A・B・C、日本語文化特論ⅠA・ⅠB・ⅠC、ⅡA・ⅡB・ⅡC、
漢文学特論A・B・C

演習科目

古典文学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC、ⅡA・ⅡB・ⅡC、ⅢA・ⅢB・ⅢC、
近代文学演習A・B・C、日本語文化演習ⅠA・ⅠB・ⅠC、ⅡA・ⅡB・ⅡC、
漢文学演習A・B・C、研究指導1～3

修了要件

1. 指導教員の研究指導12単位（ただし、各年次4単位）を含め、合計12単位以上修得すること
2. 博士論文を提出しその審査及び最終試験に合格すること

取得可能な学位

博士（文学） Doctoral Degree, Letters

取得可能な資格

- 博士前期課程（修士課程） 中学校教諭専修免許状（国語）、高等学校教諭専修免許状（国語）、高等学校教諭専修免許状（書道） ※ただし、すべて1種免許状を取得している者に限る。

学生の研究内容例（論文題目）

- 博士前期課程（修士課程） 「南九州方言における待遇表現—尊敬形式「ル・ラル」「ヤル」を中心に—」「日本・沖縄の対米従属の姿と村上龍の反米ナショナリズム—『限りなく透明に近いブルー』における占領表象—」「万葉後期歌人高橋虫麻呂研究—饞別歌を中心に—」「『愛と孤独』の『密会』—福祉の遠近法で捉える〈グロテスク〉の正体—」「『源氏物語』紫上の人物形象法—植物と形容表現から—」
- 博士後期課程 「太宰治論—〈語りの場〉を軸にした中期テキストの読解—」「聖徳太子説話の研究—伝記と絵伝—」「近代短歌史の研究—時代の推移と短歌の変容—」

課程修了後の進路

教育関連分野や公務員、さらに文書作成を中心としたサービス業等への進路が期待できます。専門職としては、博士前期課程（修士課程）修了者においては、中学校・高等学校の国語科教員や図書館司書等があり、特に学校教員はこれまでも多く輩出してきました。また、正確で美しい日本語運用能力（読み、書き、話す）を活用し、出版やマスコミ、さらには放送等の分野でも活躍が期待できます。

博士後期課程修了者においては、大学教員、短期大学教員、大学研究所員等が想定され、留学生の修了者の中には、母国の大学教員になった者もいます。

〈主な実績〉

愛知県高等学校教員（国語）、和歌山県高等学校教員（国語）、大学院博士後期課程進学、民間企業 等

専任教員		*以下は2020年5月時点の情報です。	〈職位別に50首順〉
教員名等	専攻分野及び内容		担当※
大池 茂樹 OIKE, SHIGEKI 教授 修士（教育）	書道〈Calligraphy〉 漢字書道を専門としているが、仮名についても研究する。実技実践を踏まえた上で、書道の歴史・理論及びその周辺の学にも及びたい。また、書道教育についても考える。（書道専修免許取得予定者は履修してほしい。）		修士：研
小川 和也 OGAWA, KAZUNARI 教授 博士（社会学）	日本思想史〈Japanese Intellectual History〉 ①儒学及び近世の領主・政治思想を中心とした研究。②書物・出版・読書の観点から「牧民」思想を探る研究。③越後長岡藩をフィールドにした藩学と藩政改革の研究。④大佛次郎・鞍馬天狗を対象とした「戦争と知識人」の研究。		博士：研
甘露 純規 KANRO, JUNKI 教授 博士（文学）	出版論〈Study of Publication〉 著作権と盗作事件について、文化的背景を参照しながら研究を行っている。関連する研究領域は、文学研究・出版研究・法制史研究と多岐にわたる。		博士：研 修士：研
後藤 英次 GOTO, EIJI 教授 修士（文学）	日本語学〈Japanese Philology〉 専攻分野は日本語学（日本語史）。主に中古～近世の変体漢文（公家日記等に見られるもの。和化漢文、記録体ともいう）の語彙・語法・文体について調査・研究を進めている。変体漢文の語彙・語法の共時的変種、通時的变化、また、その和漢混淆文（軍記や説話等）への影響の解明等が、目下の課題である。		修士：研
酒井 敏 SAKAI, SATOSHI 教授 文学修士	近代文学〈Modern Literature〉 もともとの専攻分野は、森鷗外を中心とする明治・大正時代の文学の研究であり、今日までの研究業績の中核をなす。現在では、新美南吉を中心とする近現代の児童文学・文化、絵画や映像などビジュアルイメージと言語表現との比較を軸とするメディア研究なども含め、漫画やライトノベルにも及び近現代の文学・文化を幅広く研究対象としている。		博士：研 修士：研
徳竹 由明 TOKUTAKE, YOSHIKI 教授 修士（文学）	日本中世文学〈Japanese Middle period Literature〉 専攻分野は、もともとは『平家物語』、『義経記』等の軍記物語及び伝承文芸であったが、最近はお伽草子や寺社縁起類にも興味を持っている。特定のテキストを読み込むというよりは、ある人物や寺社等に纏わる伝承が、時間の経過や取り巻く環境の変化によってどのように変容しているのかを考察することに興味がある。		博士：研 修士：研
福井 佳夫 FUKUI, YOSHIO 教授 文学修士	漢文学〈Chinese Literature〉 中国六朝期の文学を研究しているが、この時期の文学が日本の上代・中古に強い影響を与えた関係で、日中の文学交流にも関心を寄せている。具体的にいえば六朝の四六駢儷文とそれを模した日本上代の漢文学、さらに志怪伝奇とそれを模した日本の説話などの文学交流である。最近では、唐代伝奇小説の『広異記』を院生と一緒に講読しながら、この書が日本へ与えた影響を考察している。		博士：研 修士：研
柳沢 昌紀 YANAGISAWA, MASAKI 教授 文学修士	近世文学〈Japanese Edo period Literature〉 専攻分野は、近世文学及び板本書誌学。特に仮名草子や『信長記』『太閤記』『大坂物語』等の近世軍書を中心に伝本調査を行いつつ、個々の作品の読みの可能性を探っている。また、近世前期の出版書肆の動向にも関心をもち、書物が生産され、流通してゆく過程の諸相を明らかにすべく、研究を進めている。		博士：研 修士：研
勝亦 志織 KATSUMATA, SHIORI 准教授 博士（日本語日本文学）	平安文学〈Japanese Heian Literature〉 平安時代から鎌倉時代までの王朝物語文学を研究対象とし、その物語史の変遷を女性や語りといった視点から考察を進めている。現在は『源氏物語』以前の作品がどのように『源氏物語』の達成を促したのかという点に興味があり、950年代以降に成立した歌物語と勅撰集・私家集がどのように長編物語に影響しているのかについて研究を進めている。		修士：研
宮内 佐夜香 MIYAUCHI, SAYAKA 准教授 博士（文学）	現代日本語学〈Present-day Japanese Linguistics〉 日本語の接続表現が主な研究対象。特に逆接表現形式の通時的变化について、形態、機能、文体等さまざまな観点から記述し、実証的な解明を目指している。近世以降の文献（現代も含む）を調査資料としており、近年整備されつつある大規模な日本語コーパス（電子的な日本語データベース）を利用して、接続表現形式の実態の計量的な調査を進めている。		修士：研

※担当について

博士：研……博士後期課程研究指導教員

修士：研……博士前期課程（修士課程）研究指導教員

教員に関する詳細は以下↓から検索できます。

中京大学公式ホームページ→「中京大学研究者業績データベース」

<https://www.chukyo-u.ac.jp/>



沿革

2018年4月 文学研究科歴史文化専攻修士課程設置

概要及び特色

本専攻では、日本の歴史文化に関する広範な専門知識及び史資料の読解力を有し、その知識・能力をもって史資料や史跡を現代に保存・管理・活用する者として、あるいは広く歴史や伝統を踏まえ地域社会の発展を推進する者として、博物館その他の社会教育、自治体史編纂、まちづくり、学校教育、出版、観光などの場において、指導的な立場で活躍できる人材を養成します。また、教育課程編成（カリキュラム）においては、以下の7つの特色を有しています。

①古代史から近現代史まで切れ目のない科目の配置、②近現代史科目を厚く配置、③日本及び地域社会の伝統と文化に関する科目を配置（民俗学・日本思想史）、④本学が立地する東海地域の特性を重視、⑤国際的な視野の醸成に配慮し、国際関係史科目を配置、⑥修了後の進路に配慮し、歴史資料（archives）の保存と活用に関する科目を配置、⑦歴史研究と歴史教育の連携に関する科目を配置。

教育課程

*以下は2020年5月時点の情報です。

講義科目

研究者倫理、修士論文作成の基礎、日本古代史特論、日本中世史特論Ⅰ・Ⅱ、戦国・織豊期特論Ⅰ・Ⅱ、日本近世史特論Ⅰ・Ⅱ、日本近現代史特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、日本思想史特論Ⅰ・Ⅱ、地域社会の伝統と文化特論Ⅰ・Ⅱ、日本史と国際環境特論

演習科目

日本古代史料研究、日本中世史料研究Ⅰ・Ⅱ、戦国・織豊期史料研究Ⅰ・Ⅱ、日本近世史料研究Ⅰ・Ⅱ、日本近現代史料研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、日本思想史史料研究Ⅰ・Ⅱ、地域社会の伝統と文化資料研究Ⅰ・Ⅱ、日本史と国際環境史料研究、歴史研究と歴史教育、歴史資料の保存・活用研究Ⅰ・Ⅱ、日本歴史文化特殊研究1～4

修了要件

1. 基盤科目2単位、専攻基礎科目8単位以上、専攻応用科目8単位以上、研究指導科目8単位を含む、合計32単位以上を修得すること
2. 修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（文学） Master's Degree, Letters

取得可能な資格

中学校教諭専修免許状（社会）、高等学校教諭専修免許状（地理歴史） ※ただし、すべて1種免許状を取得している者に限る。
学芸員〔博物館の専門的職員の資格〕

学芸員資格に関する注意事項

修士課程に在学しながら、学部の科目等履修生制度を用いて学芸員課程科目を修得することで、学芸員資格を取得することができます。学芸員課程の履修希望者は、以下を確認の上、必ず大学院入試出願時の事前面談で志望指導教員に相談してください。
・大学院入試の出願とは別に、科目等履修生の出願が必要となります。
・学部の科目等履修生として履修する場合は、修士課程在学期間に限り、科目等履修生の登録料及び履修料は免除となります。但し、学芸員課程履修費や実習費が別途かかります。
・履修科目や時間割などの詳細については、大学院事務課までお問い合わせください。

学生の研究内容例（論文題目）

「豊臣政権の家臣構造について～浅野長吉を中心に～」
「平安中期から鎌倉期における歴史書の受容とその変遷―勅撰国史と物語風史書―」
「中世後期の堺における社会構造―公権力と在地社会の関係ならびに会合の研究―」

課程修了後の進路

日本の歴史文化に関する高度にして幅広い知識、地域への深い理解を糧に、伝統文化を活かした企画や事業、歴史の知識を広める業務に従事する人材として、コンサルタント会社、観光関連会社、教育関連会社などの各種サービス業、博物館関連業界、公務員などの進路が期待できます。専門職としては、中学校社会科・高等学校地理歴史科教員や図書館司書、博物館・資料館の学芸員などが期待できます。また、歴史資料を読み解くことで得た、豊富な語彙力にもとづく日本語運用能力を活かし、出版やマスコミ、編集などの分野でも活躍が期待できます。

〈主な実績〉

愛知県高等学校教員（地歴）、大学院博士後期課程進学 等

専任教員

*以下は2020年5月時点の情報です。

〈職位別に50音順〉

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
小川 和也 OGAWA, KAZUNARI 教授 博士（社会学）	日本思想史〈Japanese Intellectual History〉 ①儒学及び近世の領主・政治思想を中心とした研究。②書物・出版・読書の観点から「牧民」思想を探る研究。③越後長岡藩をフィールドにした藩学と藩政改革の研究。④大佛次郎・鞍馬天狗を対象とした「戦争と知識人」の研究。	修士：研
白根 孝胤 SHIRANE, KOIN 教授 博士（史学）	日本近世史〈Japan Early Modern History〉 日本近世において、長期にわたる平和な時代を築いた幕藩制国家の構造について、とくに徳川将軍家と大名家との関係（幕藩関係）や尾張藩政史の展開をテーマに研究を進めている。また、図譜や写真史料の分析にもとづく将軍・大名間の儀礼や交流の様相など、文化史・社会史の側面からも研究に取り組んでいる。	修士：研
中元 崇智 NAKAMOTO, TAKATOSHI 教授 博士（歴史学）	日本近現代史〈Japan Modern History〉 専門は日本近現代史、とりわけ明治期の自由民権運動と、それをリードした板垣退助ら自由党「土佐派」の研究をしている。近年は、板垣退助・西郷隆盛像など、ある人物がどのように伝説化されたのか、そして、その歴史観がどのように定着したのかを政治的意図を含めて解明することを目指している。	修士：研
播磨 良紀 HARIMA, YOSHINORI 教授 文学修士	日本中・近世史〈Japan Medieval and Early Modern History〉 日本中世・近世の移行期における政治史・地域史研究、及び食文化史を研究対象としている。特に、移行期に登場した織田・豊臣政権を対象とした研究を行い、その政治動向などを探究し、また中央政権の動向が地域にいかん影響を及ぼすかなど、地域における近世社会成立を考える。豊臣政権の政治構造、特に同政権における秀吉とそれを支えた彼の一族の関係などを研究している。	修士：研
村岡 幹生 MURAOKA, MIKIO 教授 文学修士	日本中世史〈Japan Medieval History〉 日本の中世後期（室町・戦国期）が専門で、近年はとくに、松平氏の研究を核に、戦国期三河・尾張の政治史を研究している。また、愛知県下各自治体史編纂事業とのかかわりのなかで、史料の発掘・調査に従事することが多くなった。わけても、従来「雑史」などと分類されて研究の進んでいなかった、江戸時代に作成された三河・尾張の軍記・史書・系譜などを担当する機会が多く、それらの書誌学的考察及び史料としての価値を研究している。	修士：研
小早川 道子 KOBAYAKAWA, MICHIKO 准教授 学士（文学）	日本民俗学〈Japan Folklore〉 愛知県の年中行事や食生活に関する民俗を主な研究対象としている。近年は子供が関わる行事について、特に日進市周辺の「お月見どろぼう」や、西三河平野部のボラ利用の習俗などに注目している。古老からの聞き取り等、フィールドワークをもとにした従来の民俗学的手法とあわせて、古文書など文献資料を使った民俗研究も模索している。	修士：講
溝口 優樹 MIZOGUCHI, YUKI 講師 博士（歴史学）	日本古代史〈Japan Ancient History〉 日本古代における地域社会の構造や動態の研究を歴史学の立場から研究している。特に氏族の分析を通して、地域における社会的結合の実態解明に取り組んでいる。また、発掘によってみつかる出土文字資料にも注目している。近年は古代氏族の通時的な研究や手工業生産、古代山城、国際交流史に関する研究も進めている。	修士：講

※担当について

修士：研……修士課程研究指導教員

修士：講……修士課程講義のみ担当教員

教員に関する詳細は以下↓から検索できます。

中京大学公式ホームページ→「中京大学研究者業績データベース」

<https://www.chukyo-u.ac.jp/>



沿革

2006年4月 国際英語学専攻修士課程設置

概要及び特色

英語が世界に広まり「国際共通語」とまで言われる現在、英語を使う非英語母語話者は英米などの母語話者の数倍に達し、様々な英語変種を生み出しています。それに伴い、英米をはじめとする英語圏の英語も変種の一つと考える新しい国際英語の概念が注目されています。本専攻では、この国際英語論の更なる理解を深め、様々な分野で活躍できる人材の育成を基本的な目的としています。

なお、春学期からだけでなく秋学期からの入学を可能としており、学年暦がセメスター制であることや、外国の大学を修了した者の受験を考慮した入学システムを採用し、自己の研究計画に合った入学時期を選択することができるようになっています。

教育課程

*以下は2020年5月時点の情報です。

講義科目

国際英語学基礎、国際英語学特論Ⅰ・Ⅱ、社会言語学特論Ⅰ・Ⅱ、言語政策特論Ⅰ・Ⅱ、異文化理解特論Ⅰ・Ⅱ、早期英語教育学特論Ⅰ・Ⅱ、英語教育政策論、比較英語教育学特論、英語教育評価論、国際関係学特論Ⅰ・Ⅱ、国際ジャーナリズム論特論Ⅰ・Ⅱ、国際英語教育学特論Ⅰ・Ⅱ、国際日本語教育学特論Ⅰ・Ⅱ、English as an International Academic LanguageⅠ・Ⅱ、英語プレゼンテーション特論Ⅰ・Ⅱ、英語論文作成法特論Ⅰ・Ⅱ

演習科目

国際英語学特殊演習Ⅰ～Ⅳ

修了要件

1. 演習8単位を含む合計30単位以上を修得すること
2. 修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（国際英語学） Master's Degree, World Englishes

取得可能な資格

中学校教諭専修免許状（外国語（英語））、高等学校教諭専修免許状（外国語（英語）） ※ただし、すべて1種免許状を取得している者に限る。

学生の研究内容例（論文題目）

「An Analysis of Senior High School English Textbooks in China - Toward Developing Students' Four Skills and Promoting "Chineseness"」

「国際英語論の視点で見る日本の英語教育と歴史教育の問題点」

「高等学校英語教育における国際英語論の有効性」

「インドの英語教科書における題材分析—特に Maharashtra 州における州立学校の英語教科書について—」

「Japanese parental beliefs on language learning and Awareness of changing demographics of global language use」

課程修了後の進路

日本語教師、海外の日本人学校教員、外国人研修生指導員、観光・旅行業関係、国連機関、多国籍企業、NGO、NPO等の外務省外郭団体などを想定しています。また、国際英語の視点に立った英語教育者の育成も重視しており、カリキュラムを通して英語専修免許の取得と指導能力の修得をサポートします。加えて、国際英語学における研究従事者の育成も視野にいれ、博士後期課程への進学を意識した研究指導も考慮しています。

専任教員

*以下は2020年5月時点の情報です。

〈職位別に50音順〉

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
足立 公也 ADACHI, KIMIYA 教授 修士（文学）	英語統語論〈English Syntax〉 研究の中心分野は生成文法に基づく英語の分析であるが、最近では、比較統語論の観点から日英語の、特に動詞の類似性と相違点に強い関心をもっている。また、言語というシステムにおいてルールを操作するという意味で、「ことば遊び」、も重要な研究テーマになりつつある。	修士：研
ジェームズ・ダンジェロ JAMES D'ANGELO 教授 PhD (English)	応用言語学〈Applied Linguistics, World Englishes〉 James D'Angelo's research interests focus on a world-Englishes-informed approach to defining and codifying an Educated Variety of Japanese English, and of identifying pedagogical practices-such as interdisciplinary studies - to help build such a variety. His most recent research is in the area of EIL and English as a lingua franca. He is editor-in-chief of the Routledge journal <i>Asian Englishes</i> .	修士：研
都築 雅子 TSUZUKI, MASAKO 教授 文学修士	語彙意味論・コーパス言語学〈Lexical Semantics and Corpus Linguistics〉 語彙意味論・文法研究及び日本人の話す英語のインテリジャビリティに関する研究を行っている。英語の語彙や構文に関しては、現代英語の電子コーパス（実際の書き言葉や話し言葉をコンピュータ上で利用可能にしたテキストの集合体）を利用し、最近では、コーパスの英語学習や教育への活用にも興味がある。	修士：研
尾和 潤美 OWA, MASUMI 准教授 PhD (Politics and International Studies)	国際協力／グローバル・ガバナンス研究〈International Cooperation/Global Governance〉 国際関係学の観点から国際協力分野の政策研究や国際機関研究を行っている。最近では、国際協力分野におけるグローバル・ガバナンスの在り方、アフリカの開発課題、日本の援助政策など、現地調査も含めた研究を実施している。	修士：研補
リチャード・モリソン RICHARD MORRISON 准教授 Master of Education	英語教育学〈Teaching English as an International Language〉 Richard Morrison's research interests are based around curriculum development and reform. He works closely with teachers in finding the strengths and weaknesses of Japanese English language learners in the university setting, with regards to reading, listening, and speaking. His work centers on improving the English language learning opportunities in the classroom. His classes will be designed to learn about the best ways to promote quality English education in the Japanese English language classroom.	修士：研補
松元 洋介 MATSUMOTO, YOSUKE 准教授 博士（文学）	英語史的統語論〈English Historical Syntax〉 生成文法理論に基づき、現代英語のみならず英語史における言語事実の研究を行っている。最近では英語史における前置詞残留の使用拡大、現代英語の不定詞関係節におけるWH句の生起制限を研究対象とする。	修士：研補
メリサンダ・ベルコウィツ MELISANDA BERKOWITZ 講師 博士（学術）	文化人類学と国際協力〈Anthropology and Development〉 健康をウェルビーイングとし、その社会・政治的要因をグローバルな視野で探る。特に、国際協力実践において文化相対主義の視点から自然科学をどのように考え、応用するかをテーマに、文化人類学的なフィールド調査やアーカイブ調査を行う。フィールドは、バングラデシュ、フィリピン、日本で、最近では障がい者家族の権利、住民の組織化（community organizing）の事例研究も行う。	修士：研

※担当について

修士：研……修士課程研究指導教員

修士：研補…修士課程研究指導補助教員

教員に関する詳細は以下↓から検索できます。

中京大学公式ホームページ→「中京大学研究者業績データベース」

<https://www.chukyo-u.ac.jp/>



沿革

2006年4月 英米文化学専攻修士課程設置

概要及び特色

本専攻のカリキュラムは、狭義の英米文化研究のみならず、同時に実践的英語能力の向上を目指しています。英語圏の地域研究、演劇や批評などの研究や、英米の言語にかかわるさまざまな科目群の開講に加え、英語教育にも力を入れています。文化研究コースでは、文字媒体の他に視聴覚媒体を通して英米文化を多面的に研究することを目指しています。また、言語研究コースでは、電子化された膨大な言語資料（BNCなどのコーパス）を駆使して、英語の語法・文法研究や言語使用域の観点からの社会言語学的研究を行います。

さらに海外グラデュエート・ディプロマ・コース等海外留学を促進するため、高度な英語能力の向上を図る諸科目を配置したり、海外留学で取得した単位を読み替える（10単位まで）制度も導入しています。

なお、春学期からだけでなく秋学期からの入学も可能としており、学年暦がセメスター制であることや、外国の大学を修了した者の受験を考慮した入学システムを採用し、自己の研究計画に合った入学時期を選択することができるようになっています。

教育課程

*以下は2020年5月時点の情報です。

講義科目

英米文化学特論、アカデミック・ライティングⅠ・Ⅱ、リサーチ・メソッドⅠ・Ⅱ、
 イングリッシュ・ワークショップⅠ・Ⅱ、イギリス文化研究特論Ⅰ・Ⅱ、
 北アメリカ文化研究特論Ⅰ・Ⅱ、比較地域文化特論Ⅰ・Ⅱ、演劇文化特論Ⅰ・Ⅱ、
 言語文化・批評特論Ⅰ・Ⅱ、言語システム研究特論Ⅰ・Ⅱ、言語データ処理特論Ⅰ・Ⅱ、
 言語ワークショップⅠ・Ⅱ

演習科目

英米文化学特殊演習Ⅰ～Ⅳ（研究指導）

修了要件

1. 演習8単位を含む合計30単位以上を修得すること
2. 修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（英米文化学）

Master's Degree, British and American Cultural Studies

取得可能な資格

中学校教諭専修免許状（外国語（英語））、高等学校教諭専修免許状（外国語（英語）） ※ただし、すべて1種免許状を取得している者に限る。

学生の研究内容例（論文題目）

「Guns and Society: Comparing American and Canadian Frontier Mythologies through Western Genre Films」

「Representations of Inter-cultural Marriage in Early Modern England: Facing the Insecurity of English Identity and Assimilating the Difference into English Society」

「In the Clothes Named Gender: The Improvisation of Gender Identity and Eating Disorders」

課程修了後の進路

英米文化学専攻（修士課程）修了後の進路としては、大きく高等専門教育（他大学の博士後期課程などへの進学や、海外の大学・大学院への留学）と、学修した内容を活かした専門職（翻訳実務や外資系企業などへの就職）とに分かれます。また、既に当該教科（英語）の一種免許状にかかる所要資格を得ている場合には、本専攻の修了要件を満たすことで、申請により英語の専修免許状を取得することができます。

専任教員

*以下は2020年5月時点の情報です。

〈職位別に50音順〉

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
岩田 託子 IWATA, YORIKO 教授 修士（近代文学）	イギリス研究〈British Literary and Cultural Studies〉 文化・映画・美術・音楽のみならず、ファッションやインテリアや広告をもふくむイギリス文化を研究対象とする。法改正、経済状況の変化などを視野におさめる。目下は19世紀の啓蒙運動においてエンタテインメントの果たした役割を、禁酒運動における幻灯機上映に探っている。	修士：研
クリストファー・J・アームストロング CHRISTOPHER J. ARMSTRONG 教授 PhD (English)	北アメリカ研究〈North American Literary and Cultural Studies〉 Christopher J. Armstrong teaches American and Canadian literary and cultural studies as well as courses in graduate-level reading, writing and research skills. His research interests include the road in North American film and literature, regionalism and multiculturalism in Canada, and gender and consumption in contemporary literature.	修士：研
中川 直志 NAKAGAWA, NAOSHI 教授 博士（文学）	英語統語論〈English Syntax〉 英語の節構造、とりわけ、tough 構文と呼ばれる、難易を表す形容詞が不定詞節を補部にとる構造について、生成文法理論に基づく共時的、通時的研究を行ってきた。近年では対象を、不定詞節を含む他の構文にまで拡大すると共に、それらの不定詞節に現れるとされる空演算子や PRO などの空範疇の認可についても研究している。	修士：研
森 有礼 MORI, ARINORI 教授 修士（文学）	アメリカ文化（南部文学）〈American Literature (Studies of Southern Literature)〉 ウィリアム・フォークナーを中心として、19世紀以降の南部文学を、小説作品を中心に研究している。特に関心があるのは南部における人種、性差、階級のイデオロギー性と、南部の歴史表象との関連である。また、精神分析を初めとした文学批評理論にも関心があり、非文字媒体を含めた文化的諸現象を、こうした理論的側面から批評する。	修士：研
杉浦 清文 SUGIURA, KIYOFUMI 准教授 博士（言語文化学）	英語圏ポストコロニアル文学〈Postcolonial Literature in English〉 既成のイギリス文学・文化概念をポストコロニアル研究の視点から再考している。カリブ海地域の文学を研究対象としてきたが、さらに現在では、研究の射程を日本の引揚者の文学にまで押し広げ、かつての植民地主義の「後腐れ」を地球・惑星規模で検証している。	修士：研補

※担当について

修士：研……修士課程研究指導教員

修士：研補…修士課程研究指導補助教員

教員に関する詳細は以下↓から検索できます。

中京大学公式ホームページ→「中京大学研究者業績データベース」

<https://www.chukyo-u.ac.jp/>



沿革

- 1971年 4月 文学研究科心理学専攻修士課程設置
- 1978年 4月 大学院文学研究科心理学専攻博士課程設置
- 2002年 4月 心理学研究科実験・応用心理学専攻 修士課程・博士課程設置

概要及び特色

本専攻では、基本的心理過程に関する学識をもち、その応用によって快適で安全な人間環境系の設計に寄与する学術研究者および専門実務者を養成しています。

基礎研究領域では、感覚・知覚・感情・学習・認知・行動などの領域における教育研究を行うとともに、基礎と応用を繋ぐ実験・測定・解析などの多様な方法に精通した人材の育成に努めています。応用研究領域では、基礎研究の成果を踏まえて現実的諸問題の解決を可能にする心理技術の高度化をめざし、社会的要請に応じて専門の実務に従事する人材を養成します。

本専攻の基礎研究領域には、感覚・知覚・行動・学習・認知の課題領域を専門とする教員が配置されており、それぞれの領域において先端的研究の推進とともに、大学院教育においては、研究科共通授業プログラムの実施を担っています。また、応用研究領域では、生活空間の快適性の追求、視認性向上をめざす環境整備、環境適応支援プログラムの標準化、作業環境における錯誤防止など、人間一環境系の諸問題解決をめざす心理技術の研究・教育を推進します。

昼夜開講制

近年、現職者など社会人の大学院入学希望者が増加しています。それに対応するために博士前期課程（修士課程）に限って社会人を受け入れ、特に有職者の履修を考慮して、昼間（第1～5時限）と夜間（第6・7時限：18:20～21:30）の授業時間帯を設ける「昼夜開講制」を実施しています。

教育課程

*以下は2020年5月時点の情報です。

博士前期課程（修士課程）

講義科目

心理学論、心理学研究法、心理統計法1・2、
社会心理学特論、認知心理学特論A1・A2・B1・B2、
知覚心理学特論1・2、実験心理学特論A・B・C、
人間環境系特論1・2、産業心理学特論1・2、
組織心理学特論1・2、応用心理学特論A・B、
応用心理学特別講義

演習科目

応用心理学実地演習、実験心理学研究1～4、応用心理学研究1～4

修了要件

〈実験心理学領域〉

1. 必修の講義科目4単位及び指導教員の研究指導科目8単位（ただし、各セメスター2単位）を含め、合計32単位以上を修得すること
2. 修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

〈応用心理学領域〉

1. 必修の講義科目4単位、必修の実地演習科目2単位及び指導教員の研究指導科目8単位（ただし、各セメスター2単位）を含め、合計32単位以上を修得すること
2. 修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（心理学） Master's Degree, Psychology

博士後期課程

講義科目

実験心理学特論A1・A2、B1・B2、C1・C2、D1・D2、
応用心理学特論A1・A2、B1・B2、C1・C2

演習科目

心理学論・学史演習1・2、学術成果公表法演習、
実験心理学演習A1・A2、B1・B2、C1・C2、D1・D2、
応用心理学演習A1・A2、B1・B2、C1・C2、
実験心理学研究1～3、応用心理学研究1～3

修了要件

1. 指導教員の研究指導科目12単位（ただし、各年次4単位）を含め、合計20単位以上を修得すること
2. 博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

博士（心理学） Doctoral Degree, Psychology

取得可能な資格

博士前期課程（修士課程） 高等学校教諭専修免許状（公民） ※ただし、1種免許状を取得している者に限る。

学生の研究内容例（論文題目）

- 博士前期課程（修士課程）「ホワイトノイズの反復パターン検出における知覚学習」
「没入型 VR 環境における速度順応の影響—VR 呈示と二次元呈示の比較—」
「対応型両眼闘争は両眼立体視を抑制する」
- 博士後期課程
「複数の顔からなる集合化表象を用いた魅力判断に関する研究」
「知覚的抑制下における両眼情報の処理過程」
「複数の刺激次元が関わる非空間的な注意捕捉と意図的制御に関する研究」

課程修了後の進路

博士前期課程（修士課程）の修了者は、民間企業を中心に社会の多方面で活躍しています。
博士後期課程においては、修了者の多くが大学・短期大学等の教員や研究所の研究員として活躍しています。

専任教員

*以下は2020年5月時点の情報です。

〈領域別・職位別に50音順〉

●実験心理学領域

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
近藤 洋史 KONDO, HIROHITO 教授 博士（文学）	実験心理学、認知神経科学 実験心理学を専攻。入力された視覚あるいは聴覚情報が意味のある知覚表象へと体制化される脳内処理過程を研究している。また、形成された知覚表象の操作に必要な記憶や注意といった認知機能にも興味を持っている。それらの心の働きの個人差を問題解明の糸口とし、心理実験、ニューロイメージング技術、遺伝子多型分析などを効果的に組み合わせ検討している。自己意識の発生機序を明らかにすることが最終的な研究目標である。	博士：研 修士：研
高橋 康介 TAKAHASHI, KOUSUKE 教授 博士（情報学）	認知心理学、認知科学、認知神経科学 認知心理学を専攻。関連分野は認知神経科学、認知科学。心理学、脳神経科学の実験を通して心を生み出す脳の仕組みを探求している。現在は錯視や錯覚などの現象を利用して主観的な世界と物理的な世界をつなぐ脳の働きをモデル化することを目指し、文化人類学、霊長類学、計算機科学といった異分野研究者との学際的研究も進めている。 研究のキーワード：錯視・アニメシー知覚・時間認知・意識・意思決定・選好形成・食認知・認知の異文化比較。	博士：研 修士：研
鬘櫛 一夫 BINGUSHI, KAZUO 教授 博士（文学）	視覚のメカニズム 知覚心理学を専攻。両眼立体視、仮現運動及び視野闘争について、対応問題という共通の問題構造をモデル化し、実験方法として共通に累積消失時間を測定することで、これらを効率的に検討している。視野闘争において従来考えられてこなかった刺激全体の大きさが対応づけられて視野闘争を起こしていることを示し、これに基づき両眼単一視については両眼対応と単眼系との相互作用を仮定し、両眼単一視に対する新たな理論化を試みている。	博士：研 修士：研

●応用心理学領域

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
尾入 正哲 OIRI, MASAAKI 教授 修士（文学）	環境心理学、組織と安全 産業心理学を専攻。特にヒューマンエラー、作業環境の快適性、職場のメンタルヘルスなどに関する実験・調査を行っている。また、リスクテイキング行動、安全文化、環境配慮行動といった、安全と環境に関わる個人差や組織・社会的要因にも注目している。	博士：研 修士：研
松本 友一郎 MATSUMOTO, TOMOICHIRO 教授 博士（人間科学）	組織心理学、職場の人間関係 組織心理学を専攻。組織における対人ストレスについて研究している。また、対人ストレスそのものだけではなく、職場に存在する他の問題との関連を検討している。たとえば、対人ストレスによって仕事の失敗が増えることはないのか、もしあるとすれば、どのような対人ストレスによってどのような失敗が増えるのか、ということにも関心がある。主に質問紙調査、面接調査、研修を実施している。	博士：研 修士：研
向井 希宏 MUKAI, MAREHIRO 教授 修士（学術）	産業心理、技能習熟 産業心理学を専攻。技能習熟プロセスの解明を行い、動作時間分析法にもとづく詳細な作業行動分析によって、作業者の行動特性、作業への適応過程、動作錯誤の発生メカニズム、効果的な教示方法の検討などを進めるほか、最近では高齢者の作業特性、高齢ドライバーの運転行動特性の把握へと研究を展開している。	博士：研 修士：研

※担当について

博士：研……博士後期課程研究指導教員

修士：研……博士前期課程（修士課程）研究指導教員

教員に関する詳細は以下↓から検索できます。

中京大学公式ホームページ→「中京大学研究者業績データベース」

<https://www.chukyo-u.ac.jp/>



沿革

- 1971年 4月 文学研究科心理学専攻修士課程設置
- 1978年 4月 大学院文学研究科心理学専攻博士課程設置
- 2002年 4月 心理学研究科臨床・発達心理学専攻 修士課程・博士課程設置

概要及び特色

本専攻では心理学全般にわたる広い学識をもち、適応事象の基本を身につけた専門実務者および学術研究者を養成します。

臨床心理学研究領域では、心理的適応の困難な個人または集団に対し専門的知識と経験にもとづいて適切な援助を行う専門的実務者、および臨床的事象に関する研究に従事し、その成果を通じて人材育成にあたる教育研究者を養成します。

本専攻の前身である本学文学研究科心理学専攻の修了者の中には広範な心理臨床の職務において活躍している者が多数いますが、それは、人格理論や人格研究法の基礎を重視しながら心理臨床の専門的実務に不可欠な査定・治療技法を事例に即して教育してきた成果にほかなりません。

他方、発達心理学研究領域では、重要な発達研究法の一つである観察法を駆使した社会的行動の発達過程の追跡、縦断的手法による社会・情動・認知・言語・自己などの問題の分析を通して、生涯にわたる社会・文化的発達を体系的に学修しながら、現実事態における諸問題に対して適切な提言を行う教育研究者を養成します。

本専攻における臨床心理学と発達心理学の共同化は、それぞれの領域における研究・教育の実効を高めるとともに領域間の連携・相互交流を促し、より高い問題処理能力をもつ人材の育成を可能にするものと考えます。

昼夜開講制

近年、現職者など社会人の大学院入学希望者が増加しています。それに対応するために博士前期課程（修士課程）に限って社会人を受け入れ、特に有職者の履修を考慮して、昼間（第1～5時限）と夜間（第6・7時限：18：20～21：30）の授業時間帯を設ける「昼夜開講制」を実施しています（ただし課程修了の要件に加えて臨床心理士及び公認心理師の受験資格を得ようとする場合には、夜間開講の授業だけで所定の単位を充足することは不可能です）。

教育課程

*以下は2020年5月時点の情報です。科目名の表記を一部省略しています。

博士前期課程（修士課程）

講義科目

心理学論、心理学研究法、心理統計法1・2、社会心理学特論、人格発達心理学特論、生涯発達心理学特論、臨床発達心理学特論、社会・情動発達特論、育児支援特論、家族発達特論、発達心理学特論A・B、家族心理学特論、臨床精神医学特論、障害者・障害児心理学特論、組織心理学特論1・2、臨床心理学特論A・B、臨床心理面接特論A・B、行動心理学特論、犯罪心理学特論、学校臨床心理学特論、投影法特論、心理療法特論A・B、心理健康教育特論

実習科目

臨床心理学基礎実習1・2、臨床心理実習A1～A4、B1～B3、臨床心理学外実習A、B1～B3、C、発達心理学実地実習1・2

演習科目

臨床心理査定演習A・B、臨床心理学研究1～4
発達心理学研究1～4

修了要件

〈臨床心理学領域〉

1. 必修の講義科目4単位、必修の実習科目9単位及び指導教員の研究指導科目8単位（ただし、各セメスター2単位）を含め、合計32単位以上を修得すること
2. 修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

〈発達心理学領域〉

1. 必修の講義科目4単位及び指導教員の研究指導科目8単位（ただし、各セメスター2単位）を含め、合計32単位以上を修得すること
2. 修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（心理学） Master's Degree, Psychology

博士後期課程

実習科目

臨床心理学実習、臨床心理学外実習

演習科目

心理学論・学術演習1・2、学術成果公表法演習、臨床心理学演習A1・A2、B1・B2、C1・C2、D1・D2、E1・E2、F1・F2、G、H、発達心理学演習A1・A2、B1・B2、C1・C2、D1・D2、E1・E2、臨床心理学研究1～3、発達心理学研究1～3

修了要件

1. 指導教員の研究指導科目12単位（ただし、各年次4単位）を含め、合計20単位以上すること
2. 博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

博士（心理学） Doctoral Degree, Psychology

取得可能な資格

- **博士前期課程（修士課程）** 高等学校教諭専修免許状（公民） ※ただし、1種免許状を取得している者に限る。
臨床心理士受験資格 ※臨床心理学領域に限る（詳細は後述）。
公認心理師受験資格 ※臨床心理学領域に限る（詳細は後述）。

臨床心理士受験資格

本学心理学研究科博士前期課程（臨床心理学領域）は、（財）日本臨床心理士資格認定協会による臨床心理士養成第一種指定を受けています。したがって、博士前期課程を修了した年に同協会が実施する臨床心理士の資格試験を受験することができます（発達心理学領域学生は受験資格を得ることはできません。また、入学後に発達心理学領域から臨床心理学領域へ所属を変更することもできません）。

臨床心理士受験資格取得のために修得すべき科目

科目名	単位数
臨床心理学特論A	2
臨床心理学特論B	2
臨床心理面接特論A（心理支援に関する理論と実践）	2
臨床心理面接特論B	2
臨床心理査定演習A（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2
臨床心理査定演習B	2
臨床心理学基礎実習1	1
臨床心理学基礎実習2	1
臨床心理実習A3（心理実践実習）	1
臨床心理実習A4（心理実践実習）	1

注：「臨床心理実習A3（心理実践実習）」・「臨床心理実習A4（心理実践実習）」は、公認心理師受験資格取得の対象科目ではありません（「心理実践実習」の必要総実習時間に算入することはできません）。

科目名	単位数	
A群	心理学研究法	2
	心理統計法1	2
	心理統計法2	2
B群	社会・情動発達特論	2
	臨床発達心理学特論	2
	行動心理学特論	2
C群	社会心理学特論	2
	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2
	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2
D群	臨床精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2
	障害者・障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2
E群	投影法特論	2
	心理療法特論A	2
	心理療法特論B	2

※A～Eの5群の各群から2単位以上修得

公認心理師受験資格

博士前期課程（臨床心理学領域）の学生で、公認心理師法施行日（2017年9月15日）前に出身学部（4年制大学）において省令で定める科目を履修又は履修中であった者で、かつ当該学部を卒業している者については、以下の本学開講科目を修得し、博士前期課程を修了することで、公認心理師の受験資格を得ることができます。

公認心理師法第7条第1号の省令で定める科目		本学開講科目		
1	保健医療分野に関する理論と支援の展開	授業科目の名称	単位数	必・選
2	福祉分野に関する理論と支援の展開	臨床精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	必修
3	教育分野に関する理論と支援の展開	障害者・障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	必修
4	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	必修
5	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	必修
6	心理的アセスメントに関する理論と実践	組織心理学特論1（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2	必修
7	心理支援に関する理論と実践	臨床心理査定演習A（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	必修
8	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	臨床心理面接特論A（心理支援に関する理論と実践）	2	必修
9	心の健康教育に関する理論と実践	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	必修
10	心理実践実習（450時間以上）	心理健康教育特論（心の健康教育に関する理論と実践）	2	必修
		臨床心理実習A1（心理実践実習）	1	必修
		臨床心理実習A2（心理実践実習）	1	必修
		臨床心理実習B1（心理実践実習）	1	必修
		臨床心理実習B2（心理実践実習）	1	必修
		臨床心理実習B3（心理実践実習）	1	必修
		臨床心理学外実習A（心理実践実習）	2	必修
		臨床心理学外実習B1（心理実践実習）	2	1科目
		臨床心理学外実習B2（心理実践実習）	2	以上選択
		臨床心理学外実習B3（心理実践実習）	2	必修※
	臨床心理学外実習C（心理実践実習）	1	必修	

※臨床心理学外実習B1～B3の選択科目数は、必要となる総実習時間を満たすように、指導教員が学生と相談の上、決定します。

学生の研究内容例（論文題目）

- **博士前期課程（修士課程）** 「適応指導教室に通う児童生徒への関わり方についての検討ーソーシャルスキルに着目してー」
「青年期の自己愛傾向とロールシャッハテストの関連」
「自閉スペクトラム症傾向のある青年における共感性類似性に着目してー」
「ADHD 特性をもつ大学生が抱える不適応感についての検討」
「ストレングスが抑うつに与える影響の検討」
「志向の未統合感がある怒り場面におけるマインドフルネス、気晴らしの怒りへの影響」
「ロールシャッハ・テストにおける色彩刺激の処理と感情制御ープロセスモデルに基づく検討ー」
- **博士後期課程** 「抑うつ症状と社会機能に対する行動活性化モデルの検討ーアナログからの示唆ー」
「随伴性判断に影響を与える要因の研究ー試行間隔と反応密度が与える影響の検討ー」

課程修了後の進路

- **博士前期課程（修士課程）** 臨床心理職 → 総合病院、精神科病院、精神科・心療内科クリニック、大学附属相談室、スクールカウンセラー、児童養護施設など
公務員 → 児童相談所、少年鑑別所、県警察本部、市町の教育・福祉部門など
一般企業 → インテリア事務所、百貨店、陸運会社、人材バンクなど
進学・留学 → 本研究科および他大学院研究科博士後期課程
- **博士後期課程** 修了者の多くが大学・短期大学等の教員や研究所の研究者として活躍しています。

心理学研究科
臨床・発達
心理学専攻

専任教員

*以下は2020年5月時点の情報です。

〈領域別・職位別に50音順〉

●臨床心理学領域

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
神谷 栄治 KAMIYA, EIJI 教授 修士（心理学）*	心理アセスメント、心理面接 心理アセスメント、心理療法面接、心理的支援を実践・研究してきた。アセスメントについては、疾病分類にとどまらない総合的見立てや、パーソナリティ構造の検討を行ってきた。心理療法面接は、力動的立場から、幼児から成人、健常者から重篤なケースへの対応を検討してきた。支援は、犯罪被害者の支援について活動している。	博士：研 修士：研
坂井 誠 SAKAI, MAKOTO 教授 博士（医学）*	行動療法、認知行動療法 これまで病院臨床に従事してきた関係で、パニック障害や強迫性障害などの不安障害に対する行動療法・認知行動療法を専門としている。また最近では、学校領域、産業界におけるストレスの問題に興味があり、自律訓練法や社会的スキル訓練などを援用したストレス・マネジメントを研究している。	博士：研 修士：研
永田 法子 NAGATA, NORIKO 教授 修士（教育学）*	学校教育臨床、心理療法 本学着任前は病院臨床に従事し、幼児から成人までを対象として臨床実践を行ってきた。関心の中心は、幼児、児童から青年期の人たちとその家族の問題であり、スクールカウンセラーとしても活動している。ユング心理学を基礎としたイメージ表現や箱庭療法、遊戯療法なども取り組み、臨床場面における関係性に主眼をおいた研究・実践を行っている。	博士：研 修士：研
馬場 史津 BABA, SHIZU 教授 博士（心理学）*	心理アセスメント、心理療法 臨床活動の中心は精神科・心療内科などの病院で、主に成人を対象とした心理療法、心理査定に携わってきた。心理療法は力動的な観点から実践しており、アートセラピーにも取り組んでいる。心理査定はロールシャッハ・テスト及び描画テスト、特に母子画を専門としている。	博士：研 修士：研
明舘 光宜 MYOUGAN, MITSUNORI 教授 博士（心理学）*	発達障害、心理アセスメント、心理療法 臨床心理学的援助として自閉症スペクトラム障害の発達支援及び家族支援を行ってきた。心理アセスメントでは投映法に関心があり、ロールシャッハ・テストを発達障害の心理アセスメントに活かす研究に取り組んできた。最近では発達障害を対象にした怒り・不安のコントロールプログラムの開発やその介入研究にも取り組んでいる。	博士：研 修士：研

●発達心理学領域

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
川島 大輔 KAWASHIMA, DAISUKE 教授 博士（教育学）	生涯発達心理学、死生学、自殺予防学 生涯発達心理学の観点から、青年期から老年期にわたる死の意味づけと宗教との関係について、インタビューや質問紙を用いた研究を行っている。また医療・教育現場での実践に向けた、自殺予防研究にも携わっている。最近自死遺族支援に資する調査・実践や、高齢者の終活に強い関心を持っている。死や老い、あるいは自殺といった従来の発達心理学ではあまり扱われてこなかったテーマから、多様でゆらぎを含んだ人の発達のかたちを捉えたいと思っている。	博士：研 修士：研
小島 康生 KOJIMA, YASUO 教授 博士（人間科学）	家族発達行動学 家族発達心理学が専門。子どもの誕生や成長に応じて家族関係や親の心理・行動がどのように変化していくかを観察法や質問紙法、面接法などにより調査してきた。最近では、家族ダイナミクスに関する文脈横断的な観察研究に関心がある。また、行政やNPO団体と連携しながら地域に根ざした子育て支援活動を展開することにも力を注いでいる。	博士：研 修士：研
水野 里恵 MIZUNO, RIE 教授 博士（教育心理学）	発達心理学、気質、パーソナリティ 乳幼児期の子どもの社会化過程について、発達初期の子どもの気質が母親の心理面やしつけ方略とどのように影響し合うかの観点から実験的観察法・調査法を使用した縦断研究を行った。現在は、発達初期の子どもの気質的個人差を要因に組み込み、自己制御行動の発達過程に焦点を当てた研究を展開している。また、同胞集団でのモラル、一般他者に対するモラルがどのように発達していくかの観点から青年期・成人期に焦点を当てた研究も行っている。	博士：研 修士：研

※担当について

博士：研……博士後期課程研究指導教員

修士：研……博士前期課程（修士課程）研究指導教員

*……臨床心理士・公認心理師有資格者

教員に関する詳細は以下↓から検索できます。

中京大学公式ホームページ→「中京大学研究者業績データベース」

<https://www.chukyo-u.ac.jp/>

社会学専攻

博士前期課程（修士課程）
博士後期課程

豊田キャンパス

Sociology



沿革

- 1990年4月 社会学研究科修士課程開設
- 1992年4月 社会学研究科博士後期課程開設
- 2008年4月 「専門社会調査士」資格養成課程開設

概要及び特色

本研究科は、錯綜し変動する現代社会と、そこに生起する社会現象・文化現象を研究対象に据え、社会学を中心としつつ、学問研究の既存の枠組み自体への問いをも含む学際的なアプローチを進展させ、それに裏打ちされた教育と研究指導を通じて、専門的な研究力量をもつ人材の育成を目的としています。

本研究科の主な科目は、さまざまな分野の社会学、教育社会学、社会福祉学、メディア社会論、社会統計学、社会思想史、文化人類学などです。そのため本研究科では、社会学の学識と方法を深く学ぶとともに、環境と人間、メディアと文化、教育と福祉などアクチュアルな諸問題への多角的・複合的なアプローチを可能としています。

教育課程

*以下は2020年5月時点の情報です。

博士前期課程（修士課程）

講義／演習科目

家族社会学A・B特殊講義／演習、環境・健康社会学A・B特殊講義／演習、理論社会学A・B特殊講義／演習、福祉社会学A・B特殊講義／演習、地域社会学A・B特殊講義／演習、文化社会学A・B特殊講義／演習、教育社会学A・B特殊講義／演習、社会思想史A・B特殊講義／演習、社会史・歴史社会学A・B特殊講義／演習、福祉社会論A・B特殊講義／演習、ソーシャルケア論A・B特殊講義／演習、ソーシャルワーク論A・B特殊講義／演習、メディア社会論A・B特殊講義／演習、社会臨床心理学A・B特殊講義／演習、社会統計学A・B特殊講義／演習、社会人類学A・B特殊講義／演習、文化人類学A・B特殊講義／演習、博物館人類学A・B特殊講義／演習、調査企画演習、多変量解析演習、質的調査演習

修了要件

1. 指導教員の各年次演習を含む演習（調査企画演習、多変量解析演習および質的調査演習を含む）12単位以上、特殊講義16単位以上を含む合計32単位以上を修得すること
2. 修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（社会学） Master's Degree, Sociology

博士後期課程

講義／演習科目

社会学特殊講義、社会福祉学特殊講義、文化人類学特殊講義、家族社会学A・B演習、環境・健康社会学A・B演習、理論社会学A・B演習、福祉社会学A・B演習、地域社会学A・B演習、文化社会学A・B演習、教育社会学A・B演習、社会思想史A・B演習、社会史・歴史社会学A・B演習、福祉社会論A・B演習、ソーシャルケア論A・B演習、ソーシャルワーク論A・B演習、メディア社会論A・B演習、社会臨床心理学A・B演習、社会統計学A・B演習、社会人類学A・B演習、文化人類学A・B演習、博物館人類学A・B演習

修了要件

1. 指導教員の各年次演習12単位を含む合計16単位以上を修得すること
2. 博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

博士（社会学） Doctoral Degree, Sociology

取得可能な資格

博士前期課程（修士課程） 中学校教諭専修免許状（社会）、高等学校教諭専修免許状（公民）

※ただし、すべて1種免許状を取得している者に限る。

「専門社会調査士」資格対応カリキュラムの整備

本研究科の存立基盤である現代社会学部（2007年4月に社会学部から改組）は、「社会調査士」資格のための教育を実施しています。本研究科は、この学部教育と連動して、「専門社会調査士」資格に対応するカリキュラムを設け、その教育を2008年度から開始しています。このカリキュラム改定は、修士課程において当該資格の取得を可能にするための処置ですが、同時に理論的な深さと実証性の豊かさを備えた研究の発展を追求する本研究科の研究・教育の充実を促すものになるでしょう。

学生の研究内容例（論文題目）

- 博士前期課程（修士課程）
 - 「自閉症スペクトラム障害を有する子どもの母親の語りにおけるスティグマをめぐる社会学的研究」
 - 「大学生における動物のふれあい実態とメンタルヘルスの関連について」
 - 「オンラインゲームが現実の対人関係に及ぼす影響の検討 ―現実・仮想の両側面から―」
 - 「人とモノのフェティッシュな関係と逆パノプティコン的共同体 ―ゴシック&ロリータ・ファッションの事例から」
 - 「児童養護施設におけるケア職員の離職の意思形成に至る要因 ―在職者及び離職者に対するストレスとやりがい感に関するアンケート調査から―」
- 博士後期課程
 - 「中国朝鮮族の研究 ―星火村の社会構造と変化―」
 - 「小城镇発展論 ―江蘇省呉江市の一考察―」
 - 「ナイチンゲールの看護婦養成システムに関する研究 ―近代看護婦養成システムのアポリアー」
 - 「マダン劇をめぐる韓国文化誌 ―歴史・民衆文化運動・社会的実践―」
 - 「改革期における中国の「単位保障」に関する研究 ―社会構造転換における生活保障問題を中心に―」
 - 「『声』の自主メディア生成のダイナミクス ―〈メディアの生涯〉から見た協同聴取、有線放送電話、ミニFM、コミュニティFM―」
 - 「トウバ共和国の成立と『ウリヤンハイ問題』―中国側文献・資料に基づく一考察―」
 - 「児童養護施設職員のスキルトレーニングプログラムの開発に関する実証的研究 ―子どものケア体制確立を目指して―」
 - 「『施設の時代』―イギリス1834年改正貧民法下における児童の施設養育に関する歴史的研究（1834-1948）」
 - 「オンラインゲームが現実世界の対人関係に及ぼす影響の量的・質的検討」
 - 「健常者を中心とする社会で生きる自閉症者の母親 ―母親による子どもの障害の開示・秘匿の背景をめぐって―」

課程修了後の進路

研究科（大学院）出身者は、国内、海外の高等教育機関（名古屋大学・香川大学・立命館大学・西南学院大学・中部大学・愛知総合看護福祉専門学校・西安交通大学（中国）など2020年5月1日現在）で研究者、教育者として活躍しています。また、中学校・高等学校教諭として、あるいは、マスコミをはじめ、実業界の最前線で活躍している修了生もいます。

専任教員

*以下は2020年5月時点の情報です。

〈職位別に50音順〉

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
大岡 頼光 OOKA, YORIMITSU 教授 博士（人間科学）	福祉国家論〈Welfare State〉 少子高齢化が進む中で福祉国家制度を維持していくには、次世代の育成が欠かせない。持続可能な制度を作るためには、どのような「人生前半の社会保障」が望ましいのかを、主に教育投資を中心にして研究している。	博士：研 修士：研
小木曾 洋司 OGISO, YOSHI 教授 修士（文学）	地域社会学〈Community Study〉 平成の合併以後、地域社会研究の社会的文脈は変化した。国家のセイフティネットとしての役割の後退、それに代わる地方自治体及び地縁団体やNPO法人などの役割の増大の経過において、地域社会がもつ公共性の様々な側面を再発見・評価する流れである。それは国家の公的役割の補完ではなく、自治の主体と内容の創造を意味しよう。	博士：研 修士：研
加藤 晴明 KATO, HARUHIRO 教授 修士（社会学）	メディア社会研究〈Media Society〉 情報社会・メディア社会に関する理論的・実証的研究。メディアコミュニケーション及び音声メディア（ラジオ）に関する理論的・実証的研究。CMC、電話コミュニケーション、メディア空間、コミュニティ放送、地域メディア等。	博士：研 修士：研
亀井 哲也 KAMEI, TETSUYA 教授 修士（文化科学）	博物館人類学〈Museum Anthropology〉 南アフリカ、ンデベレ社会を主なフィールドとした文化人類学、博物館人類学研究。民族意識醸成を図って既存の物質文化・装飾文化をシンボル化し、それを「伝統」と語る社会での野外博物館の実践を継続的に研究している。	博士：研 修士：研
亀山 俊朗 KAMEYAMA, TOSHIRO 教授 博士（人間科学）	シティズンシップ論〈Citizenship Studies〉 グローバル化における仕事や生活、社会や国家の諸問題を、シティズンシップ（権利や義務を伴う市民の地位身分、市民としてのあり方）研究の視点から検討している。フリーター、外国人、女性など労働市場の周辺に置かれがちな人々と、身分は保障されていても過重な労働に就く男性正社員らの問題を、一貫した理論的・歴史的視点で分析する。	博士：研 修士：研
斉藤 尚文 SAITO, HISAFUMI 教授 修士（文学）	社会人類学〈Social Anthropology〉 調査地：グアテマラ共和国、パプアニューギニア、日本 調査テーマ：開発、医療、親族、まちづくり	博士：研 修士：研
成 元哲 SUNG, WONCHEOL 教授 修士（社会学）	リスク社会論と環境社会学〈Sociology of Environmental Health : A Social Determinants Perspective〉 地球温暖化、水俣病、四日市公害、所沢のダイオキシン問題、反原発運動といった環境問題からみた現代社会の分析と、それに基づいた環境と健康との関係に関する実証分析を行っている。主に地域社会の凝集性やソーシャルサポートなど環境健康を決める社会的要因の観点から研究している。	博士：研 修士：研

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
辻井 正次 TSUJII, MASATSUGU 教授 修士（教育心理学）	社会臨床心理学〈Social Clinical Psychology〉 社会システムと発達過程の関連性について発達障害や臨床群にある人の抱える課題から臨床心理学的な検討を加えていく。特に広汎性発達障害の発達支援システムの構築と運営など。	博士：研 修士：研
野口 典子 NOGUCHI, NORIKO 教授 博士（社会福祉学）	高齢者福祉、社会老年学〈Social Welfare for the Aged, Social Gerontology〉 ①高齢者関係施設ケア実践の科学化・標準化をめざしており、ことに要介護状態にある高齢者の医療・看護・介護・福祉実践の統合化とその実践方法に関する研究を中核としつつも、②近年では認知症高齢者とその家族の地域ケアに関する国際比較研究に着手し、認知症の新たなケア方策と、地域ケア実践モデル開発を自治体との共同で行っている。	博士：研 修士：研
松田 茂樹 MATSUDA, SHIGEKI 教授 博士（社会学）	家族社会学〈Sociology of Family〉 家族社会学を学術的背景にして、少子化対策、子育て支援、ワーク・ライフ・バランス等に関する実証的研究を行っている。わが国の合計特殊出生率は世界的にみて極めて低く、国の持続に黄信号がともっている。少子化の実態と背景は何かを探り、解決策を考えて提言する研究活動をしている。	博士：研 修士：研
芦川 晋 ASHIKAWA, SHIN 准教授 修士（社会学）	理論社会学、社会理論〈Social Theory〉 E・ゴフマン等いわゆるミクロ社会学と呼ばれる議論について、N・ルーマンの枠組みを参照にしなが、その理論構成や問題設定を明らかにする作業を行う一方で、その知見をベースにして現代社会につきまとう諸問題（自我、コミュニケーション、親密性等）について理論的な考察をめぐらし、現象を読みとくツールを提供していくこと。	博士：研 修士：研
伊藤 葉子 ITO, YOKO 准教授 博士（社会福祉学）	社会福祉援助論、障害者福祉〈Theory and Practice of Social Work, Social Welfare for people with disabilities〉 社会福祉実践の共通基盤の枠組みとその要素について。障害を持つ人の自立に向けた地域生活支援のあり方について。なかでも、当事者参加、運営を中心とする支援体制のあり方と実践能力のある専門家としての自己の形成にむけた養成課程及び実践のなかでの教育のあり方について。	博士：研 修士：研
岡部 真由美 OKABE, MAYUMI 准教授 博士（文学）	文化人類学、東南アジア研究〈Cultural Anthropology, Southeast Asian Studies〉 東南アジア大陸部のタイをフィールドとして、近代化ならびにグローバル化に伴う社会変化と宗教の再編に関する民族誌的研究をおこなっている。具体的には、地域コミュニティの「開発」に取り組む上座部仏教の僧侶たちに着目し、彼らによる新たな社会性や共同性を追求する運動について、フィールドワークにもとづいた調査研究をおこなっている。	博士：研 修士：研
芝野 淳一 SHIBANO, JUNICHI 准教授 博士（人間科学）	教育社会学、移民研究〈Sociology of Education, Migration Studies〉 国際移動する子ども・若者の教育問題をテーマに調査研究をおこなっている。具体的には、グアムでのフィールドワークに基づき、海外で生まれ育つ日本人の子ども・若者のアイデンティティ形成や進路選択について調査を続けている。また、それらに親の教育戦略や在外教育施設（日本人学校・補習授業校）が果たす機能についても研究している。	博士：研 修士：研
中嶋 洋 NAKASHIMA, HIROSHI 准教授 博士（医療福祉学）	社会福祉学、社会事業史〈Social Welfare, Social Welfare History〉 長野県上田市を中心に、近現代日本のホームヘルプ事業史を歴史的・実証的に明らかにする研究を行っている。さらに、事業展開に関する各国の差異の検証、事業・制度を推進した鍵人物の思想展開の探究を通じ、社会事業史研究が社会福祉学にどう寄与するかを考究している。	博士：研 修士：研
中原 純 NAKAHARA, JUN 准教授 博士（人間科学）	社会心理学、社会老年学〈Social Psychology, Social Gerontology〉 社会心理学に関する理論と方法論（調査法、実験法、観察法など）に基づき、青年期の若者から高齢者の対人関係と幸福感（主観的 well-being、心理的 well-being）の因果関係を分析している。特に、自己概念を媒介したモデルの構築から、人々の幸福感を高める介入プログラムの開発までを視野に入れている。	博士：研 修士：研
松谷 満 MATSUTANI, MITSURU 准教授 博士（人間科学）	政治社会学、社会意識論〈Political Sociology, Social Psychology〉 政治社会学、社会意識論について、計量的な実証研究に取り組んでいる。主たる目的は、①「伝統-近代」の枠組みにおさまらない「第二の近代」に適合的な社会意識論の構築、②その枠組みにもとづく現代の脱政党的政治現象の解明、である。	博士：研 修士：研
森田 次郎 MORITA, JIRO 准教授 博士（文学）	教育社会学、学校社会学〈Sociology of Education〉 「教育」の多様性に関する社会学的研究。「オルタナティブ教育」と呼ばれる諸実践、特に現代日本で不登校支援を行うフリースクールの活動を対象に、1)そこでは何が「教育」や「学び」とみなされ、一斉授業や教科書に代表される既存の学校文化（社会化・配分・正統化など）のあり方がいかに再構成されているか、2)なぜそうした諸実践が社会的に必要とされるかをフィールド調査の知見から考察。	博士：研 修士：研

※担当について

博士：研……博士後期課程研究指導教員

修士：研……博士前期課程（修士課程）研究指導教員

教員に関する詳細は以下↓から検索できます。

中京大学公式ホームページ→「中京大学研究者業績データベース」

<https://www.chukyo-u.ac.jp/>

Law



沿革

- 1976年 4月 法学研究科法律学専攻修士課程開設
- 1978年 4月 法学研究科法律学専攻博士後期課程開設
- 1997年 4月 同研究科博士前期課程（修士課程）にコース制導入
- 2008年 4月 新たなコース制「研究コース」「専門コース」を導入

概要及び特色

本研究科は、法の目的たる正義を実現し、あらゆる社会悪と闘うために必要となる高度な専門的知識および卓越した実践能力の修得を教育研究上の理念としています。この理念に基づく教育研究を通じて、法律学および政治学に関する高度な専門的知識、思考能力、問題発見能力、問題解決能力の修得を目指します。さらに、研究能力または高度な専門性が求められる職業に就く上で必要となる卓越した能力と確固たる遵法精神を持ち、協調性と社会性に富んだ、不断の努力を決して惜しまない人材を育成します。

本研究科博士前期課程（修士課程）では、研究者養成と専門職業人養成の双方を強力に推進するために、「研究コース」と「専門コース」を設置しています。このことにより、コースごとの指導内容が明確に区別され、それぞれの目的に沿ったカリキュラムと指導体制が整備されています。

教育課程

*以下は2020年5月時点の情報です。

博士前期課程（修士課程）

講義科目

憲法A・B特殊講義、憲法訴訟論A・B特殊講義、行政法A・B特殊講義、税法A・B特殊講義、民法I A～IV B特殊講義、企業法I A～III B特殊講義、知的財産法A・B特殊講義、刑法I A～II B特殊講義、民事訴訟法A・B特殊講義、刑事訴訟法A・B特殊講義、国際法A・B特殊講義、労働法A・B特殊講義、法史学A・B特殊講義、法哲学A・B特殊講義、国際関係論A・B特殊講義、政治過程論A・B特殊講義、政治史A・B特殊講義、特定研究I A～II B、特定研究III～VI

研究指導科目

研究論文指導I A～II B、専門論文指導I A～II B

修了要件

1. 講義24単位以上、研究指導8単位、合計32単位以上を修得すること
2. 修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（法学） Master's Degree, Law

博士後期課程

講義科目

憲法A・B特殊講義、憲法訴訟論A・B特殊講義、行政法A・B特殊講義、民法I A～IV B特殊講義、企業法I A～III B特殊講義、知的財産法A・B特殊講義、刑法I A～II B特殊講義、民事訴訟法A・B特殊講義、刑事訴訟法A・B特殊講義、国際法A・B特殊講義、労働法A・B特殊講義、法史学A・B特殊講義、法哲学A・B特殊講義、国際関係論A・B特殊講義、政治過程論A・B特殊講義、政治史A・B特殊講義、特定研究I A・I B・II・III

研究指導科目

論文指導I A～III B

修了要件

1. 講義12単位以上、研究指導12単位、合計24単位以上を修得すること
2. 博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

博士（法学） Doctoral Degree, Law

取得可能な資格

- 博士前期課程（修士課程） 中学校教諭専修免許状（社会）、高等学校教諭専修免許状（公民）
※ただし、すべて1種免許状を取得している者に限る。

学生の研究内容例（論文題目）

- 博士前期課程（修士課程） 「輸入事後調査に基づく更正処分の取消訴訟における立証責任及び立証の程度に関する一考察」
「親の監督者責任と教育現場における監督者責任の在り方～監督義務の分配に関する検討を中心として～」
「ヘイトスピーチと表現の自由—刑事規制賛成説の検討—」
「外国にサーバーのあるショッピングサイトで購入された著作物不正複製品等への対応」
「通達の効果に関する一考察」
「実父子関係の成立要件に関する一試論」
「不正薬物密輸入事犯における証拠集取手法に係る一考察—故意及び共謀の点を中心に—」
「就業規則の不利益変更—合理性変更法理の再構成への試み—」
- 博士後期課程 「中国会社立法の展開と機関に関する日本法からの示唆」
「『共謀共同正犯』について—中国の共同犯罪論との比較研究—」
「日本帝国主義における植民地官僚制度研究—台湾総督府行政官僚を中心として—」

課程修了後の進路

本研究科の修了生は、大学教員・研究職や研究支援部門の職員、中学校・高等学校等の教員、弁護士・税理士・公認会計士・社会保険労務士等の法律専門職、官庁・企業の法律職などで活躍しています。

専任教員

*以下は2020年5月時点の情報です。

〈職位別に50音順〉

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
愛知 正博 AICHI, MASAHIRO 教授 修士（法学）	刑事法〈Criminal Law〉 広く刑事法全般に関心を寄せているが、とくに国際的な犯罪現象に対する刑事法的な対処のしかたを実体的及び手続法的に検討する国際刑事法の分野に比重をおいて、研究活動を行っている。犯罪処罰のための国際協力と個人の人権尊重という視角から研究を進めている。	博士：研 修士：研
小坂田 裕子 OSAKADA, YUKO 教授 博士（人間・環境学）	国際法〈International Law〉 国際法のうち、とりわけ国際人権法を研究対象としています。多様な国際社会における普遍的な人権基準の可能性と課題に関心を有しており、これまでマイノリティの権利や先住民族の権利などについて、国連や地域的機関で採択された条約の起草過程や実施状況を分析・評価してきました。	博士：研 修士：研
杉島 由美子 SUGISHIMA, YUMIKO 教授 修士（法学）	民法〈Civil Law〉 民法の領域のうち、不法行為の分野を研究対象としています。民法だけでなく特別法上の被害者救済制度（公害健康被害補償制度、医薬品副作用被害救済制度等）にも注目して、民事的な被害者救済はどうあるべきかについて研究しています。また、最近では、消費者法の分野にも関心を持っており、特定商法取引法等を研究対象として消費者保護のあり方について研究を進めています。	博士：研 修士：研
土井 崇弘 DOI, TAKAHIRO 教授 博士（法学）	法哲学〈Philosophy of Law〉 法哲学の中の「現代正義論」を専門分野としている。「日本文化を考慮した自由社会擁護論」というテーマに基づいて、F・A・ハイエクの議論を中心に研究を進めている。これ以外に、日本文化論や生命倫理などにも関心を持っている。	博士：研 修士：研
土岐 孝宏 DOKI, TAKAHIRO 教授 博士（法学）	企業法〈Corporation Law〉 商取引法、とりわけ、保険法を主たる研究領域としている。損害保険における損害填補原則（利得禁止原則）、傷害・疾病保険契約における保険事故概念、立証責任、責任開始前発病不担保、危険減少、因果関係、各種の免責条項等について研究を進めている。	博士：研 修士：研
中川 由賀 NAKAGAWA, YUKA 教授 学士（法学）	刑事法〈Criminal Law〉 検察官として刑事事件の捜査公判に携わってきた実務経験を有しており、刑事法を専門分野としている。現在は、主に、自動運転をはじめとする新しい技術の社会実装に伴って生じる法律問題に関する研究をしている。法的責任だけでなく、法規制の在り方についても研究を行っている。	博士：研 修士：研
新里 慶一 NIISATO, KEIICHI 教授 修士（法学）	企業法〈Corporation Law〉 商法・会社法を中心とする、「企業法」全般を研究範囲としているが、現在は、主に、現代の企業取引における企業取引の決済に関する法の現状と課題について研究している。また、海商法も研究領域としている。	博士：研 修士：研
古川 浩司 FURUKAWA, KOJI 教授 修士（国際公共政策）	国際関係論・境界地域研究〈International Relations, Borderlands Studies〉 もともと近年の日本の多国間外交におけるリーダーシップに関心を寄せていたが、現在は主に日本の国境政策や人権外交などに関する研究を進めている。研究業績をはじめ詳細は、 https://www.chukyo-u.ac.jp/educate/law/professor/furukawa.html を参照のこと。	博士：研 修士：研
保条 成宏 HOJO, MASAHIRO 教授 修士（法学）	刑事法〈Criminal Law〉 刑事法のうち、刑法を主たる専攻分野としているが、刑事訴訟法、少年法、更生保護法などにも関心を向けている。また、研究との関係において、医事法、障害法、生命倫理などに関心がある。具体的な研究テーマとしては、子どもへの医療ネグレクト→子どもに必要な治療行為に対する親の拒絶→を取り上げ、これへの法的対応として、刑法と民法・福祉法との協働による「総合的医事法」を構想し、目下そのあり方を模索中である。	博士：研 修士：研
皆川 治廣 MINAGAWA, HARUHIRO 教授 博士（法学）	公法〈Public Law〉 憲法・行政法の領域において、プライバシー権の保護、個人情報保護に関する理論及び実務の在り方を研究している。特に、地方公共団体における個人情報保護に関心があり、個人情報の収集・管理、外部提供、開示請求・訂正請求・利用停止請求に対する措置決定等の法的問題点について、裁判例を検討素材としながら、その解決策を模索している。	博士：研 修士：研
森 まどか MORI, MADOKA 教授 修士（法学）	企業法〈Corporation Law〉 従来から、会社法の領域のうち、企業金融、特に社債に関する法的諸問題（社債権者と株主の利害調整、社債管理者の義務・権限等）を研究対象としてきた。現在はその他に、企業統治の分野（債権者保護一般）についても関心を寄せ研究を行っている。	博士：研 修士：研

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
上田 貴彦 UEDA, TAKAHIKO 准教授 修士（法学）	民法〈Civil Law〉 民法のなかでも現在は主として債権法及び契約法領域の研究に取り組んでいます。最近になって、伝統的な契約責任論の問題点が多々浮き彫りになってきていますが、その一つである損害賠償をめぐる問題に対して多角的アプローチから再検討を加えることで、体系的な契約責任論の再構築に少しでも寄与できればと思っています。とりわけ現在は、ドイツ債務法との比較法的観点から、費用賠償の問題と契約責任の第三者拡張の問題を中心に研究を行っています。	博士：講 修士：研
大原 寛史 OHARA, HIROFUMI 准教授 修士（法学）	民法〈Civil Law〉 民法、とりわけ契約法を中心に研究している。現在は、契約の拘束力の限界をめぐる諸問題について、ドイツにおける議論を参照し、様々な観点からの検討を試みている。	博士：講 修士：研
京 俊介 KYO, SHUNSUKE 准教授 博士（法学）	政治過程論〈Political Process〉 政治過程論のうち、政策形成過程の分析に関心をもっています。とりわけ、政治家、官僚、利益集団、あるいは裁判所といった政治アクター間の相互作用が、なぜどのようにして政策の形成に影響を与えているのかを、ゲーム理論等を用いた理論的仮説と事例分析による実証とを組み合わせ研究しています。主要研究業績として、『著作権法改正の政治学：戦略的相互作用と政策帰結』（木鐸社、2011年）。	博士：講 修士：研
柴田 洋二郎 SHIBATA, YOJIRO 准教授 博士（法学）	労働法、社会保障法〈Employment and Labor Law, Social Security Law〉 労働法、社会保障法を研究しております。とりわけ、①労働法については、仕事と家庭の両立をはかることができるような働き方や制度、②社会保障法については、社会保険における財源と給付の構造、が現在の関心です。これらについてフランスを対象とした比較法（制度）研究を行っています。	博士：講 修士：研
張 栄紅 ZHANG, RONGHONG 准教授 博士（法学）	行政法〈Administrative Law〉 行政基準論を中心に、都市計画及び環境に関する行政基準を素材に法的統制のあり方について中国やアメリカとの比較法研究を行ってきました。また、現在では、食品安全行政領域における行政基準にも関心を寄せており、食品の国際的流通に伴い構築されている多元的システムに対する法的統御のあり方についての比較法を交えた分析を進めています。	博士：講 修士：研
濱崎 智江 HAMASAKI, CHIE 准教授 修士（法学）	民法〈Civil Law〉 民法（財産法）を研究対象としており、とりわけ民法の条文にない制度の解明及び多数当事者の債権関係に特に強い関心を抱いている。債務引受や契約上の地位の移転という制度についてドイツ民法を素材として研究している。	博士：講 修士：研
矢切 努 YAGIRI, TSUTOMU 准教授 博士（法学）	法史学〈Legal History〉 法史学のなかでも、「日本近現代法史学」を専門分野とし、特に、近現代日本の「地方自治」を研究対象としています。これまで、戦前日本における「国家による地方統治」のあり方という主題を設定して、この主題を、法的視点と社会経済的視点との両方から考察を進めてきました。その理由は戦前日本の地方統治のあり方が、現代日本の地方統治のあり方と深く関連しあっているからです。したがって、研究の関心は現代にもあります。最近では、「国家による地方統治」のあり方を解明するという私の研究主題において重要な、税財制史の分野、特に、現在その是非が問われている地方交付税制度に関心をもって研究を進めています。	博士：講 修士：研

※担当について

博士：研……博士後期課程研究指導教員

博士：講……博士後期課程講義担当教員

修士：研……博士前期課程（修士課程）研究指導教員

教員に関する詳細は以下↓から検索できます。

中京大学公式ホームページ→「中京大学研究者業績データベース」

<https://www.chukyo-u.ac.jp/>

経済学専攻

博士前期課程（修士課程）
博士後期課程

名古屋キャンパス

Economics



沿革

- 1991年 4月 経済学研究科経済学専攻修士課程開設
- 1993年 4月 経済学研究科経済学専攻博士後期課程開設
- 2009年 4月 同研究科に総合政策学専攻博士前期課程（修士課程）および博士後期課程を設置

概要及び特色

本専攻の課程は博士前期課程（修士課程）と博士後期課程からなり、高度の研究を行うことによって、経済学研究者や税理士をはじめとする経済専門職業人の養成を主たる目的としています。それぞれの分野において優れた研究を行っているスタッフが、豊富な講義科目、演習科目を担当。また、複数教員による指導体制により、論文作成に懇切丁寧に対応しています。

カリキュラムは「理論」「歴史」「政策」を中心とする正統派的な課程を編成。またセメスター制を採用し、秋期入学・修了を可能にしています。就業しながら大学院で高度専門知識を修得したいという社会人に対応するため、演習科目を重視した研究指導や昼夜開講制、あらかじめ修学期間を3年とする長期履修制度（修士課程のみ）を導入しています。

教育課程

*以下は2020年5月時点の情報です。

博士前期課程（修士課程）

講義科目

マクロ経済学研究Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学研究Ⅰ・Ⅱ、経済数学研究Ⅰ・Ⅱ、統計学研究Ⅰ・Ⅱ、計量経済学研究Ⅰ・Ⅱ、経済学史研究Ⅰ・Ⅱ、経済史研究Ⅰ・Ⅱ、経済成長論研究、経済変動論研究、産業組織論研究、労働経済学研究、経済政策研究Ⅰ・Ⅱ、財政学研究Ⅰ・Ⅱ、金融論研究Ⅰ・Ⅱ、国際経済学研究Ⅰ・Ⅱ、貿易政策研究、国際金融論研究、アジア経済論研究、都市経済学研究、日本経済論研究、社会保障論研究、環境経済学研究、所得税法研究Ⅰ・Ⅱ、消費税法研究、相続税法研究

演習科目

経済学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学特殊研究Ⅰ～Ⅳ、ミクロ経済学特殊研究Ⅰ～Ⅳ、経済学史特殊研究Ⅰ～Ⅳ、日本経済史特殊研究Ⅰ～Ⅳ、西洋経済史特殊研究Ⅰ～Ⅳ、景気循環論特殊研究Ⅰ～Ⅳ、統計学特殊研究Ⅰ～Ⅳ、計量経済学特殊研究Ⅰ～Ⅳ、経済政策特殊研究Ⅰ～Ⅳ、財政学特殊研究Ⅰ～Ⅳ、地方財政論特殊研究Ⅰ～Ⅳ、金融論特殊研究Ⅰ～Ⅳ、国際金融論特殊研究Ⅰ～Ⅳ、国際経済学特殊研究Ⅰ～Ⅳ、貿易論特殊研究Ⅰ～Ⅳ、貿易政策特殊研究Ⅰ～Ⅳ、産業組織論特殊研究Ⅰ～Ⅳ、社会保障論特殊研究Ⅰ～Ⅳ、環境経済学特殊研究Ⅰ～Ⅳ、労働経済学特殊研究Ⅰ～Ⅳ、都市経済学特殊研究Ⅰ～Ⅳ

修了要件

1. 特殊講義8単位以上、経済学基礎演習Ⅰ・Ⅱを除く演習12単位以上（各セメスター2単位以上）、特殊講義及び演習（経済学基礎演習Ⅰ・Ⅱを含む）合計32単位以上を修得すること
2. 修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（経済学） Master's Degree, Economics

博士後期課程

講義科目

経済学研究概論Ⅰ・Ⅱ

演習科目

マクロ経済学特別研究Ⅰ～Ⅵ、ミクロ経済学特別研究Ⅰ～Ⅵ、経済学史特別研究Ⅰ～Ⅵ、日本経済史特別研究Ⅰ～Ⅵ、西洋経済史特別研究Ⅰ～Ⅵ、景気循環論特別研究Ⅰ～Ⅵ、統計学特別研究Ⅰ～Ⅵ、計量経済学特別研究Ⅰ～Ⅵ、経済政策特別研究Ⅰ～Ⅵ、財政学特別研究Ⅰ～Ⅵ、地方財政論特別研究Ⅰ～Ⅵ、金融論特別研究Ⅰ～Ⅵ、国際金融論特別研究Ⅰ～Ⅵ、国際経済学特別研究Ⅰ～Ⅵ、貿易論特別研究Ⅰ～Ⅵ、貿易政策特別研究Ⅰ～Ⅵ、産業組織論特別研究Ⅰ～Ⅵ、社会保障論特別研究Ⅰ～Ⅵ、環境経済学特別研究Ⅰ～Ⅵ、労働経済学特別研究Ⅰ～Ⅵ、都市経済学特別研究Ⅰ～Ⅵ

修了要件

1. 演習Ⅰ～Ⅵを含む合計12単位以上を修得すること
2. 博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

博士（経済学） Doctoral Degree, Economics

取得可能な資格

中学校教諭専修免許状（社会）、高等学校教諭専修免許状（公民）※ただし、すべて1種免許状を取得している者に限る。

税理士試験の一部科目免除（税法に属する科目の免除）について

修士の学位により税法に属する科目の試験免除を受けようとする場合には、自己の研究が税法に属する科目等に関するものであることについて国税審議会から認定を受ける必要があります。（税理士法第7条：平成14年4月1日施行）

研究の認定を受けるためには、次の条件を満たしている必要があります。

- (1) 大学院において所得税法や法人税法などの税法に属する科目等の研究により学位を授与されていること。
 - (2) 申請する分野（税法に属する科目）の試験科目のうち、1科目の試験で基準（満点の60%）以上の成績を得ていること（いわゆる一部科目合格していること）。
- すなわち、税理士試験において税法に属する科目のうちの1科目に合格し、大学院で税法に属する科目の研究によって修士の学位を授与された場合には、国税審議会に申請して認定を受けることによって、税法に属する科目等の試験科目が免除されます。
- ※制度の詳細については、国税庁のホームページなどでご確認ください。

専攻の入学には税理士志望者が多いという実情に鑑み、これらの大学院学生に対しては、財政や税制に関する研究指導はもとより、将来、税理士として活躍できるための基礎学力と専門知識を養うための講義と研究指導を行っています。

学生の研究内容例（論文題目）

- 博士前期課程（修士課程） 「交際費の損金算入の可否に関する研究」
 「「一宮七夕まつり」の経済効果からみる一宮市の経済循環」
 「遺産取得課税方式への移行の提案」
 「日本における所得格差と再分配政策」
 「役員給与課税制度の問題点—条文規定の整合性および課税要件の不明確性—」
 「中国経済発展と地球環境問題への対応」
 「近世後期の大阪における死亡構造の解明」
- 博士後期課程 「越境汚染問題への動的アプローチに関する研究」
 「環境外部性、課税政策、および経済成長」
 「都市の環境評価と都市政策」
 「人的資本投資と経済成長」

課程修了後の進路

本専攻では人材養成の目的として、経済学の新しいパラダイムの構築に資することのできる研究者、国際的に貢献できるエコノミスト、高度な専門学識を通じて学問研究と社会の結びつきに資する専門職業人、出身国ならびにわが国の発展と相互友好のために活躍できる外国人研究者などの育成を掲げており、社会で活躍する有為な人材を輩出しています。

専任教員

*以下は2020年5月時点の情報です。

〈職位別に50音順〉

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
阿部 英樹 ABE, HIDEKI 教授 博士（農学）	日本経済史 〈Japanese Economic History〉 経済面から、地域社会の歴史を研究している。近世後期から高度成長期の歴史資料の収集・解読を進めながら、地域経済の長期的分析に取り組んでいる。	博士：研 修士：研
内田 俊博 UCHIDA, TOSHIHIRO 教授 ph.D. (Economics)	環境経済学 〈Environmental Economics〉 主な研究テーマは企業や消費者の自発的な環境行動の経済分析である。近年は環境ビジネスや気候政策への応用を中心に研究を進めている。	博士：研 修士：研
梅村 清英 UMEMURA, KIYOHIDE 教授 博士（経済学）	貿易論 〈Trade Theory〉 国際貿易の理論及び政策についてのミクロ経済学的分析を中心に研究している。	博士：研 修士：研
釜田 公良 KAMADA, KIMIYOSHI 教授 博士（経済学）	経済政策 〈Economic Policy〉 現在の主な研究の対象：世代間所得移転政策、遺産動機、子の数の選択、親と子の居住地選択、環境や教育などの世代間問題。これらに関するもの以外で、過去に行った研究：社会資本の最適水準の計測、公共投資の地域間配分、高雇用余剰の計測とシミュレーション、所得階層別消費関数の推定、財政投融资のマクロ経済効果など。	博士：研 修士：研
小林 毅 KOBAYASHI, TAKESHI 教授 博士（経済学）	金融論 〈Monetary Economics〉 金融現象に対するミクロ経済学的アプローチを主な研究分野としている。証券市場、保険及び銀行業など、幅広い分野における理論的、実証的研究を行っている。	博士：研 修士：研
近藤 健児 KONDOH, KENJI 教授 博士（経済学）	国際経済学 〈International Economics〉 国際経済学の一分野である生産要素の国際的移動の理論分析を主として行う。特に国際労働移動のメカニズムやそのひき起こす経済的影響を検討する。	博士：研 修士：研
鈴木 崇児 SUZUKI, TAKAJI 教授 博士（工学）	都市経済論 〈Urban Economics〉 都市・交通を中心とした地域経済学を研究分野としている。都市交通における需要管理施策や規制緩和、都市における集積の経済性について計算機システムによるシミュレーションを基礎とする分析を行っている。	博士：研 修士：研
椿 建也 TSUBAKI, TATSUYA 教授 ph.D. (Social History)	西洋経済史 〈Western Economic History〉 イギリス流のソーシャル・ポリシー論の中で重要な位置を占める住宅をめぐる諸問題に焦点を当てて、これを歴史的、総合的に検討する。	博士：研 修士：研

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
中山 恵子 NAKAYAMA, KEIKO 教授 博士（経済学）	ミクロ経済学〈Micro Economics〉 主としてミクロ経済学に基づいた理論的分析を行っているが、近年は、非線形計画問題、あるいは環境制御問題を扱ってきた。現在は、産業連関モデルを利用した環境問題に興味を抱いている。	博士：研 修士：研
平澤 誠 HIRAZAWA, MAKOTO 教授 博士（経済学）	財政政策〈Fiscal Policy〉 財政的手段を用いた政府による様々な政策の効果を中心に理論的に分析している。特に、環境政策や年金、社会保障政策など、世代間での利害調整に関わる経済問題に関心を持っている。また最近では、少子高齢化など人口動態の変化の下での政策の効果にも関心がある。	博士：研 修士：研
古川 章好 FURUKAWA, AKIYOSHI 教授 博士（経済学）	地方財政〈Local Public Finance〉 地域での公共投資もしくは社会資本の最適供給問題を中心として、公共投資の地域配分、地方政府の社会資本供給問題等の公共支出に関する問題を研究している。また、望ましい地方分権のあり方、市町村合併、地方の人口規模、行政サービスのあり方に関する諸問題も研究している。	博士：研 修士：研
山田 光男 YAMADA, MITSUO 教授 博士（経済学）	計量経済学〈Econometrics〉 計量経済学の応用研究を行っている。主として多部門モデルや産業連関分析の枠組みを用いて、日本を含む先進国とアジア諸国の貿易と産業構造の相互連関に関する計量経済学的研究を行うとともに、地域産業連関表を中心とした地域経済の計量分析に取り組んでいる。	博士：研 修士：研
齊藤 由里恵 SAITOH, YURIE 准教授 博士（経済学）	社会保障論〈Social Security〉 社会保障の主なものとして、年金、医療、介護、生活保護があげられる。これらの共通した論点、問題点として所得補償があげられる。特に、生活保護制度のあり方や、生活保護制度以外での所得補償の必要性について検討している。	博士：研 修士：研
都丸 善央 TOMARU, YOSHIHIRO 准教授 博士（経済学）	産業組織論〈Industrial Organization〉 主な研究テーマは寡占理論、特に、私企業と公企業による競争を理論的に分析することである。近年は産業政策がそうした競争にどう影響するかについて研究している。	博士：研 修士：研
西本 和見 NISHIMOTO, KAZUMI 准教授 博士（経済学）	経済学説史〈History of Economics〉 20世紀半ば以降のアメリカで経済学的アプローチが政治学や社会学といった周辺領域へ影響を与えたことについて、その動向の背景や思想について研究している。分野を超えて社会科学の方法が共有される際の経済学者たちの思想や知的環境に関心を持ち研究している。	博士：研 修士：研
深井 大幹 FUKAI, HIROKI 准教授 Ph.D. (Economics)	貨幣理論〈Monetary Theory〉 現在の主な研究テーマは貨幣および金融資産の理論的経済分析である。マクロ経済モデルや金融経済モデルを用いた金融資産や銀行の役割についての理論・実証・実験的研究に興味がある。	博士：研 修士：研
深堀 遼太郎 FUKAHORI, RYOTARO 准教授 博士（商学）	労働経済学〈Labor Economics〉 人々の就業行動に関する実証研究を行っている。これまで、主に育児や介護に関する制度変更が労働供給に与える影響について、家計パネルデータなどのマイクロデータを用いて分析してきた。	博士：研 修士：研
増田 淳矢 MASUDA, JUNYA 准教授 博士（経済学）	統計学〈Statistics〉 経済の理論を検証する場合、抽象的な経済理論を具象化して適切な計量モデルを構築して、適切な経済データを利用して検証を行う必要がある。現在の研究テーマは統計学的にも経済学的にも適切な計量モデルを構築して、さまざまな経済理論を検証することが可能な計量モデルを提案することである。	博士：研 修士：研

※担当について

博士：研……博士後期課程研究指導教員

修士：研……博士前期課程（修士課程）研究指導教員

教員に関する詳細は以下↓から検索できます。

中京大学公式ホームページ→「中京大学研究者業績データベース」

<https://www.chukyo-u.ac.jp/>



沿革

- 1991年 4月 経済学研究科経済学専攻修士課程開設
- 1993年 4月 経済学研究科経済学専攻博士後期課程開設
- 2009年 4月 同研究科に総合政策学専攻博士前期課程（修士課程）および博士後期課程を設置

概要及び特色

本専攻は総合政策学部を母体とし、2009年度に発足しました。現代は、国内外にわたる政府活動と企業活動、地域活動や非営利活動とが互いに関連して、複合的な政策課題が絶えず生じています。そうした政策問題に対処するには、経済学、経営学、法学、政治学という既存の学問分野を踏まえつつ、総合的視点を持って政策研究を行うことが不可欠といえます。そこで本専攻では、現代社会の状況に対応して、公共政策や地域政策、経営戦略やマーケティングなどに関する理論的知識や実践的能力を修得し、研究能力に裏打ちされた高度の専門的職業を担うことができる卓越した人材の育成を目標としています。

また、本専攻では社会人の履修に配慮して昼夜開講制を採用。夜間（6限目：午後6時20分～午後7時50分、7時限：午後8時～午後9時30分）も開講しています。

教育課程

*以下は2020年5月時点の情報です。

博士前期課程（修士課程）

講義科目

総合政策方法論Ⅰ・Ⅱ、原典講読、公共政策研究、行政法研究、自治体法研究、自治体行政研究、地方政治研究、都市政策研究、消費者政策研究、国際政策研究、国際法研究、国際開発研究、ミクロ経済学研究、マクロ経済学研究、経済政策研究、公共経済学研究、経営管理研究、経営戦略研究、流通研究、マーケティング研究、国際マーケティング研究、非営利組織経営論、ベンチャー企業論、ビジネスイノベーション研究、政策評価研究Ⅰ・Ⅱ、日本語論文指導Ⅰ～Ⅳ

演習科目

総合政策特殊研究Ⅰ～Ⅳ

修了要件

1. 必修の講義科目4単位及び指導教員の特殊研究（演習）8単位（ただし、各セメスター2単位）を含め、合計30単位以上を修得すること
2. 修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（総合政策学）
Master's Degree, Policy Studies

博士後期課程

講義科目

総合政策文献研究、総合政策企画研究、総合政策調査研究、総合政策実践研究

演習科目

総合政策特別研究Ⅰ～Ⅵ

修了要件

1. 指導教員の特別研究（演習）12単位（ただし、各セメスター2単位）を含め、合計20単位を修得すること
2. 博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

博士（総合政策学）
Doctoral Degree, Policy Studies

学生の研究内容例（論文題目）

- 博士前期課程（修士課程）「ファスト消費社会の検討—ファストファッションとファストフードから見える消費文化の新動向」
- 「中国におけるグローバル人材の育成—改革開放後における留学生政策を中心に—」
- 「commons理論と河川・流域管理政策」
- 「地方選挙管理の多様性に関する一考察—瀬戸市と尾張旭市の事例をもとに—」
- 「内モンゴル自治区における乳業の物流システムに関する考察」
- 「都市自治体における監査委員の実態と展望」

課程修了後の進路

本専攻は、経済理論、経済と経済学の歴史、金融、国際経済、産業など、各分野の専門的知識と国際的視野をもつ人材を育成しており、修了生は民間企業や行政機関、教育研究機関、NGOなど、社会の様々な場で活躍しています。

専任教員 *以下は2020年5月時点の情報です。 <職位別に50音順>

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
太田 真治 OTA, SHINJI 教授 修士（経済学）	国際マーケティング論 国際マーケティング グローバル企業に対する現代の事象を取り上げ、国際マーケティングの課題に関する研究指導を行う。	博士：研 修士：研
大森 達也 OMORI, TATSUYA 教授 博士（経済学）	財政政策論 財政政策に関する研究 少子・高齢化社会における財政政策について、経済学の観点から研究指導を行う。	博士：研 修士：研
岡本 祥浩 OKAMOTO, YOSHIHIRO 教授 博士（学術）	居住福祉論 生活資本論研究 様々に起こる居住問題を生活を支えている「生活資本」をその構築と崩壊という双方向の視角から研究指導する。	博士：研 修士：研
小山 佳枝 OYAMA, KAE 教授 修士（法学）	国際法・法政策特殊研究 国際法（特に、国際環境法及び海洋法）について、理論的・実証的見地から研究指導を行う。	博士：研 修士：研
桑原 英明 KUWABARA, HIDEAKI 教授 修士（法学）	日本行政論 行政学、日本行政論 国や地方自治体の行政構築を対象として、その制度・管理・政策の態様に関する研究指導を行う。	博士：研 修士：研
坂田 隆文 SAKATA, TAKAFUMI 教授 博士（商学）	マーケティング戦略論 マーケティング戦略 企業が行うマーケティング活動に関してケースを中心に分析し、企業のマーケティング戦略がいかに行われているのかを検討するための分析視角に関する研究指導を行う。	博士：研 修士：研
佐道 明広 SADO, AKIHIRO 教授 博士（政治学）	日本政治外交論 日本の政治と外交に関する歴史的研究。特に戦後日本の安全保障政策、日米関係、東アジア国際関係、政軍関係論などを中心に研究している。近年は特に安全保障問題との関係で沖縄の政治に関する現地調査や、国境地域の調査を実施しているほか、政治家、官僚などへのオーラルヒストリー（口述の歴史記録）も行っている。	博士：研 修士：研
高橋 秀雄 TAKAHASHI, HIDEO 教授 修士（経済学）	サービスマーケティング論 サービス・マーケティング 専攻分野は、マーケティング論、サービスマーケティング論、流通論、物的流通論、電子商取引等の経営学系の分野の他、非営利組織マーケティング、電子政府・自治体論等の公共政策系の分野にもわたっている。1つの専攻分野だけでなく広範な領域にわたる研究をしている。	博士：研 修士：研
竹田 昌次 TAKEDA, MASATSUGU 教授 修士（経営学）	人的資源管理論 日本企業における人事管理制度 終身雇用や年功賃金に対する変革という問題を取り上げ、「グローバル化と日本の経営」という課題設定の下に研究指導を行う。	博士：研 修士：研
弘中 史子 HIRONAKA, CHIKAKO 教授 博士（経済学）	中小企業論 中小企業のものづくりに関する研究 日本の中小製造業における技術力向上、国際化について、経営学の視点から研究指導を行う。	博士：研 修士：研
宮内 美穂 MIYAUCHI, MIHO 教授 修士（商学）	ソーシャルビジネス研究・ベンチャー企業研究 ベンチャー企業 市場において勝ち抜くため、さまざまな分析手法を用いて企業における競争優位の源泉を見出し、それを基にどのような戦略を立て、また、いかに実行するかについて研究する。	博士：研 修士：研
今井 良幸 IMAI, YOSHIYUKI 准教授 博士（法学）	政策法務に関する研究 地方自治をめぐる諸課題について、憲法、行政法、地方自治法をはじめとした法的な視点から研究指導を行う。	博士：研 修士：研
佐藤 茂春 SATO, SHIGE HARU 准教授 博士（経済学）	政治と法の経済学的研究 政策の政治的決定や、どのような法・制度が効率的なのかについて、経済学による理論・実証分析の研究指導を行う。	博士：研 修士：研
平良 好利 TAIRA, YOSHITOSHI 准教授 博士（政治学）	地方政治論 地方政治の特質・構造および地方政治をめぐる諸課題について、政治史や政治過程論の見地から研究指導を行う。	博士：研 修士：研
溜 和敏 TAMARI, KAZUTOSHI 准教授 博士（政治学）	国際関係論 インドの国際関係 専攻は国際関係論。インドの大国間国際政治を主に研究している。大学院では、国際関係や国際開発の諸問題に対して、社会科学の定性的分析を用いてアプローチする方法を指導する。	博士：研 修士：研
中村 将人 NAKAMURA, MASATO 准教授 博士（経営学）	会計史 近代期日本の鉄道会計、特に日本鉄道業での固定資産会計の展開に関する研究を行っている。研究指導に際しては、会計制度・実務が生成された社会的・経済的・歴史的背景を重視する。	博士：研 修士：研

※担当について

博士：研……博士後期課程研究指導教員

修士：研……博士前期課程（修士課程）研究指導教員

教員に関する詳細は以下↓から検索できます。

中京大学公式ホームページ→「中京大学研究者業績データベース」

<https://www.chukyo-u.ac.jp/>



沿革

- 1995年4月 経営学研究科経営学専攻修士課程開設
- 1997年4月 経営学研究科経営学専攻博士後期課程開設

概要及び特色

本研究科では、研究発表会や学術講演会などを積極的に開催して、学生の知的関心を刺激する配慮を行っています。併せて、高度な専門的知識の修得をめざす意欲ある学生が快適に研究を進めていくことができるように、院生研究室や情報機器などといった学習環境の整備にも積極的に取り組み、研究者の養成はもちろん、ビジネスの「グローバル化」「情報化」「学際化」に対応することのできる専門的職業人の養成もめざした研究指導体制を整えています。本研究科は理論や国際化などを重視するアカデミックな性格を有しており、専任教員としてイギリスや韓国出身の教員を擁するなど国際色豊かです。

2017年度入試から「社会人選抜（有験者特別選抜）」を新設し、これまでの職業経験を経営学の学術的な観点から研究したいと考えている社会人（定年退職者を含む）を受け入れる体制を整えています。入学試験においても、社会人に配慮した試験科目を設定しています。

教育課程

*以下は2020年5月時点の情報です。

博士前期課程（修士課程）

講義科目

- 〈企業経営〉
 - 経営原理研究A・B、企業研究A・B、中小企業研究A・B、
 - 経営管理研究A・B、経営組織研究A・B、マーケティング研究A・B、
 - 人的資源管理研究A・B、生産管理研究A・B、物的流通研究A・B、
 - 経営史研究A・B、経営戦略研究A・B、消費者行動研究A・B
- 〈会計・ファイナンス〉
 - 会計学研究A・B、簿記原理研究A・B、経営財務研究A・B、金融研究A・B、
- 〈経営情報〉
 - 経営情報研究A・B、情報管理研究A・B、経営科学研究A・B、
 - 経営モデル分析研究A・B
- 〈国際経営〉
 - 国際経営研究A・B、国際ビジネス戦略研究A・B、国際金融研究A・B、
 - 国際コミュニケーション研究A・B
- 〈留学生用日本語〉
 - 日本語論文作成法I～IV

演習科目

- 論文指導演習I～IV

修了要件

1. 特殊講義24単位以上及び指導教員の演習8単位（ただし、各セメスター2単位）を含め、合計32単位以上を修得すること
2. 修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（経営学） Master's Degree, Management

博士後期課程

講義科目

経営学特殊講義I・II

演習科目

経営原理特殊研究I～VI、企業特殊研究I～VI、中小企業特殊研究I～VI、
経営管理特殊研究I～VI、経営組織特殊研究I～VI、
マーケティング特殊研究I～VI、人的資源管理特殊研究I～VI、
生産管理特殊研究I～VI、経営史特殊研究I～VI、経営管理論史特殊研究I～VI、
経営戦略特殊研究I～VI、企業会計特殊研究I～VI、経営財務特殊研究I～VI、
金融特殊研究I～VI、経営情報特殊研究I～VI、情報管理特殊研究I～VI、
経営科学特殊研究I～VI、経営モデル分析特殊研究I～VI、
国際経営特殊研究I～VI、国際ビジネス戦略特殊研究I～VI、
国際金融特殊研究I～VI、国際コミュニケーション特殊研究I～VI

修了要件

1. 必修の講義科目4単位及び指導教員の特殊研究12単位（ただし、各セメスター2単位）を含め、合計16単位以上を修得すること
2. 博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

博士（経営学） Doctoral Degree, Management

取得可能な資格

博士前期課程（修士課程） 高等学校教諭専修免許状（商業） ※ただし、1種免許状を取得している者に限る。

学生の研究内容例（論文題目）

- 博士前期課程（修士課程） 「出産・育児を控えた女性従業員の就業継続—心理的居場所感からの分析—」
- 「資産除去債務についての—考察—会計観の異同に焦点を当てて—」
- 「中小企業の海外進出に伴う技能実習生の活用—帰国技能実習生の現地工場就職促進—」
- 「信用金庫の現状とあるべき姿のギャップをどう埋めるか—商店街の空き店舗対策を通じて新たな融資スキームを創造して生き残りをかける—」
- 「T社海外子会社の原価低減活動」
- 「のれんの会計—償却か非償却か—」
- 「企業における成果主義と知識提供行動」

博士後期課程

「中国進出日系企業の賃金管理―日中における賃金決定の仕組みからの一考察―」
「生産財企業における購買取引に関する信頼の形成・維持の研究―電機、電子・計測産業の中堅・中小企業にみる実践から―」
「転換期における賃金制度の研究―トヨタを中心に―」
「トヨタ生産方式と労働時間―トヨタおよびトヨタ関連企業を中心に―」
「起業家育成と起業家教育―わが国における起業家教育の課題と展望―」
「現代日本における雇用形態の多様化と労働者―東海地域を事例として―」
「現代日本における NPO に関する研究」

課程修了後の進路

本研究科は、グローバル化や情報化が加速する現代社会において、高度の専門職業人の育成と国際的人材の育成、専門的研究者の育成を教育上の目的として設定しており、グローバル展開をしている金融・メーカーを中心に幅広い分野の優良企業への就職者を多数輩出しています。

専任教員

* 以下は2020年5月時点の情報です。

〈職位別に50音順〉

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
浅井 紀子 ASAI, NORIKO 教授 博士（経済学）	生産管理〈Production Management〉 Focusing on the concept『Synthesiology』, this course examines how the nature of technology affects global competitive position. The special topics in Production Management are IoT and AI. Emerging technologies such as Robot revolution, Hydrogen society, Aerospace will alter the business or social landscape. Huge technological system composes wide range of element technologies. The technologies have a huge potential economic impact that will drive truly massive economic transformations and create value network that will eventually replace existing products.	博士：研 修士：研
梅田 守彦 UMEDA, MORIHIKO 教授 修士（商学）	会計学〈Accounting〉 以前は企業の経営管理に資する会計情報に関することがらをテーマとしていたのですが、最近の私の関心は大学行財政・大学経営をめぐる問題へと移ってきました。ただし講義においては、大学などの非営利組織体を中心に取り上げるのではなく、企業の経営成績を判断したり企業価値を評価したりするための会計情報の活用方法について皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。	博士：研 修士：研
川端 勇樹 KAWABATA, YUKI 教授 博士（学術）	組織間関係論〈Inter-organizational Relations Theory〉 今日ではビジネスをはじめ、様々な分野で単独組織では達成不可能な目標を複数の組織の連携により達成する必要性がますます高まってきています。組織間関係論では、組織間の協力関係が構築されるための条件、構築に向けたプロセス、構築後の運営に必要な体制等を考察の対象とし、現代社会の課題解決に貢献する学問分野です。	博士：研 修士：研
佐藤 祐司 SATO, YUJI 教授 博士（工学）	経営科学〈Operations Research〉 企業や自治体等の組織の管理・運営には、その構成主体による合理的な選択と非合理的な選択が混在しています。オペレーションズ・リサーチの方法論、とくに客観情報に基づく規範的意思決定のあり方を探索するゲーム理論や、主観情報を基にした記述的意思決定のあり方を分析する階層化分析法を用いて、組織の管理・運営のより良いあり方について研究しています。	博士：研 修士：研
銭 佑錫 JUHN, WOOSOOK 教授 修士（経済学）	国際経営〈International Business Management〉 企業のグローバルな事業展開が大きな研究テーマである。現在は、その中でもグローバル事業における海外子会社の創造的な役割に焦点を当てて研究を進めている。方法論としては、事例分析と統計分析をまじえた分析手法を目指している。	博士：研 修士：研
谷口 勇仁 TANIGUCHI, EUGENE 教授 博士（経済学）	企業と社会論〈Business & Society〉 現代の企業は社会に対して大きな影響力（雇用、製品の安全性、環境問題等）を持っています。この影響力を多角的な視点から捉える分野が、企業と社会論（Business & Society）です。現在は、企業事故・不祥事に注目し、その発生メカニズムの分析と防止策の開発について研究しています。また、従業員の倫理的行動の促進要因と阻害要因についても研究しています。	博士：研 修士：研
中條 秀治 CHUJO, HIDEHARU 教授 博士（商学）	経営組織、経営管理〈Organization Theory, Management〉 経営学の一分野である経営組織論及び経営管理論は「運営」に関わる学問である。団体運営の仕組みである組織をどう構築し、それをいかに運用するかが重要なテーマとなります。 通常は、株式会社という営利団体の運営が議論の中心となりますが、ボランティア団体などの非営利団体の運営を対象とすることも可能です。私が現在取り組んでいる研究テーマは株式会社の成立原理やその内部構造の解明などです。	博士：研 修士：研
寺岡 寛 TERAOKA, HIROSHI 教授 経済学博士	経済社会学、比較中小企業政策論〈Economic Sociology, Comparative Public Policy toward Small and Medium-sized Enterprises〉 研究ベースを経済学に置きつつも、それぞれの国や地域によって社会の編成原理や社会的規模（文化や制度など）によって、人の行動は異なる。経済社会学はこの点を重視する。経済社会学の視点から、中小企業の存立や中小企業政策のあり方を研究している。	博士：研 修士：研

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
永石 信 NAGAISHI, MAKOTO 教授 修士（経済学）	グローバル組織革新〈Global Organization Development and Change〉 企業が、グローバル化に対応しつつ、自己組織を革新することに成功したり失敗したりするプロセスの分析に関心があります。具体的には、企業が自組織を革新し続けながら存続するため、どのような組織能力が重要になるか、そのような組織能力はどのようにして開発されていくのかについて研究しています。そのプロセスの中の経営層の役割、ミドルマネジャーの役割、現場メンバーの役割、外部コンサルタントの役割という側面にも注目しています。	博士：研 修士：研
中西 眞知子 NAKANISHI, MACHIKO 教授 博士（国際公共政策）	消費社会論〈Consumer Society Theory〉 グローバル社会における再帰性と再帰的近代化を研究テーマとしている。再帰性とは「自己を他者に映し出し、それが自己に帰って自己を変革する螺旋状の循環」である。市場がより速く、深くわれわれの社会に入り込んで、五感、感情、記憶、行動などがグローバルな市場に左右されるようになる。このような市場の再帰性に焦点を当て、今後、情報資本主義社会へとどのように変容していくかを展望する。日本（東京、京都、大阪など）や海外（ロンドン、香港など）の市場（いちば）の調査も行っている。	博士：研 修士：研
中村 雅章 NAKAMURA, MASAOKI 教授 工学博士	ビジネス戦略〈Business Strategy〉 企業がライバルに対して競争優位を確立するための方策であるビジネス戦略を研究している。インターネットを活用した新しいビジネスの仕組み（ビジネスモデル）が次々と生まれており、ネット戦略など企業の情報化への取り組みが注目される。最近では、ネット通販とリアル店舗を活用したオムニチャネル戦略に関心を持ち、事例調査と理論研究を行っている。	博士：研 修士：研
ハリス, R HARRIS, RICHARD 教授 ph.D. (Communication)	国際コミュニケーション〈International Communication〉 Differences between cultures are the result of many complex factors-economic, geographic, linguistic, religious and historical. My research interest is in the ways in which these different cultural identities are embodied in the myths and metaphors of a society, giving rise to generally held but often unacknowledged social values. I am further interested in how these values are expressed in word and image and in how these emblems or symbols of cultural identity affect relations with representatives of other cultures with different symbolic referents and divergent value systems.	博士：研 修士：研
峯岸 信哉 MINEGISHI, SHINYA 教授 博士（経済学）	金融研究〈Finance, Banking〉 金融システムならびに金融仲介機関に関する研究を行います。企業が事業を運営するために、まずは資金調達が重要なポイントとなります。多くの企業が銀行などの金融機関から資金を調達しますが、この金融機関の行動について企業の特徴と絡めつつ分析を行います。主な対象は中小企業向け金融機関です。	博士：研 修士：研
向日 恒喜 MUKAHI, TSUNEAKI 教授 博士（経営工学）	情報管理〈Information Management〉 情報管理のツールである情報システムと、情報管理を行う人間との関係に注目し、情報システムが企業組織、職務、そして人間に与える影響について研究する。特にアンケート調査によるアプローチを中心とし、人間をも含めた情報システムのあり方について検討していく。	博士：研 修士：研
矢部 謙介 YABE, KENSUKE 教授 博士（商学）	経営財務〈Corporate Finance〉 M&A（企業の合併・買収）が株式市場からどのように評価され、また企業業績にどのような影響を与えているのかについて研究している。M&A 以外では、コーポレート・ファイナンスや会計とビジネスの関係性（例えば、コーポレート・ガバナンスが企業業績に及ぼす影響など）についても関心を持っている。	博士：研 修士：研
吉田 康英 YOSHIDA, YASUHIDE 教授 博士（経済学）	財務会計〈Financial Accounting〉 会計学は、すぐれて実務に密着した学問領域である。したがって、会計理論だけでなく、関連する会社法、税法、業務規制及びその時々々の経済要請等も視野に入れて研究する。また、1つの経済事象（金融商品、連結決算等）に対して、解釈論的な考え方や立法的な考え方、会計情報を作成する側と利用する側といったように、多面的な観点からのアプローチを心掛ける。	博士：研 修士：研
齋藤 毅 SAITO, TAKESHI 准教授 博士（経営学）	管理会計〈Management Accounting〉 管理会計とは、企業の経営管理者（社長・部長・課長など）に対して、業績評価や意思決定等に役立つ会計情報を提供する仕組みです。近年では、「プロジェクトを対象とした管理会計」をテーマとして研究活動に取り組んでいます。	博士：研 修士：研
櫻井 雅充 SAKURAI, TADAMITSU 准教授 博士（経営学）	人的資源管理〈Human Resource Management〉 人的資源管理が従業員のアイデンティティ形成に与える影響について研究しています。人的資源管理は、従業員の管理に関するあらゆる取り組みを扱う領域ですが、その根底には従業員の資源性を最大限に発揮させようとする考え方があります。そうした考え方に基づいた様々な取り組みが、管理の対象となる従業員の性質の変容に及ぼす影響について関心を抱いています。	博士：研 修士：研
津村 将章 TSUMURA, MASAYUKI 准教授 博士（経営学）	消費者行動〈Consumer Behavior〉 物語がもたらす心理的な影響について、消費者行動の観点から研究をしています。私は消費者行動の中でも、心理学をベースとして定量的に研究をしています。このため、学生は心理学的な要素はもちろんのこと、統計処理に関しても一定の理解が求められます。	博士：研 修士：研

※担当について

博士：研……博士後期課程研究指導教員

博士：研補……博士後期課程研究指導補助教員

修士：研……博士前期課程（修士課程）研究指導教員

教員に関する詳細は以下↓から検索できます。

中京大学公式ホームページ→「中京大学研究者業績データベース」

<https://www.chukyo-u.ac.jp/>

機械システム工学専攻

Mechanical and Systems Engineering

修士課程

名古屋キャンパス

電気電子工学専攻

Electrical and Electronic Engineering

修士課程

名古屋キャンパス

情報工学専攻

Computer Science

修士課程

豊田キャンパス

工学専攻

Engineering

博士後期課程

名古屋・豊田キャンパス



沿革

- 1994年 4月 情報科学研究科（情報科学専攻、認知科学専攻）修士課程設置
- 1996年 4月 情報科学研究科（情報認知科学専攻）博士課程設置
- 2004年 4月 情報科学研究科（メディア科学専攻）修士課程設置
- 2006年 4月 情報科学研究科（メディア科学専攻）博士課程設置
- 2017年 4月 情報科学研究科修士課程を改組し、工学研究科（機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、情報工学専攻）修士課程設置
- 2019年 4月 情報科学研究科博士課程を改組し、工学研究科（工学専攻）博士後期課程設置

概要及び特色

機械システム工学専攻 修士課程

【設置キャンパス：名古屋】

機械システム工学専攻は、人間生活を豊かにするため、機械技術、情報技術、システム技術の基盤技術を総合的に使って、社会の要請に応える創造性に満ちた「ものづくりのための研究」ができる高度専門技術者の養成をねらいとしています。そのためカリキュラムでは、研究科共通の職業人意識を涵養する科目、専門的な知識を得る講義系の特論、特論での知識を深め定着させる演習系のセミナー及び研究を主体とした機械システム工学特別実験及び演習を配置しています。これらの科目で身につけた専門能力を生かし、特定分野の課題に関する専門的研究を実施し、修士論文としてまとめていきます。

特論及びセミナーは、学生の想定進路をもとに3つの履修モデルに分類されており、それぞれ先進的研究教育を受けることができます。

1. 機械技術系分野では、メカトロニクス、知能制御、機械制御や機械計測についての高度な専門知識と実践的技術を身につける。
2. 情報技術系分野では、センサ情報処理、生体情報処理、画像処理についての高度な専門知識と実践的技術を身につける。
3. システム技術系分野では、マン・マシンシステム、システム材料、生産システムについて、理論と実践の両面から高度な専門性を獲得する。
4. 機械システム工学特別実験および演習は、研究指導及び論文指導を含み、修士にふさわしい研究を行うための活動である。この科目では機械システム技術者として必要な問題発見及び問題解決能力、研究計画立案・研究推進能力を養うとともに、学会等での対外活動や外部との共同研究や企画・プレゼンテーション・知的財産保護ができる能力を養成する。

電気電子工学専攻 修士課程

【設置キャンパス：名古屋】

電気電子工学専攻は、数理的かつ綿密な思考力と電気電子工学の専門知識を持ち、自己表現及び対人関係力に優れた、応用力のある高度専門技術者及び研究者を養成します。専門知識が、細分化・先鋭化された1つの分野に限ることのないよう、共通の基盤的知識重視し、幅広く電気電子工学応用に精通する人材を養成します。

そのためカリキュラムでは、研究科共通の職業人意識を涵養する科目、専門的な知識を得る講義系の特論科目、専門知識を深め定着させる演習系セミナー科目、及び研究を主体とした研究指導科目を置くこととしており、これらの科目で養成された専門能力を活かし、特定分野の課題に関する専門的研究を実施し、修士論文としてまとめていきます。

専門科目は、将来の進路を想定して5つの履修モデル（下記）に分類されており、電気・電子・情報・通信の幅広い分野をバランスよくカバーしています。

1. エレクトロニクス分野では、デバイス、電子回路、組み込みシステム等についての高度な専門知識と実践的技術を身につける。
 2. 制御・メカトロニクス分野では、ロボット、制御システム等についての高度な専門知識と実践的技術を身につける。
 3. 情報・画像分野では、情報システム、画像応用機器等についての高度な専門知識と実践的技術を身につける。
 4. 通信・電波分野では、無線通信システム、電波応用機器等についての高度な専門知識と実践的技術を身につける。
 5. 電気分野では、電力システム、電気機器等についての高度な専門知識と実践的技術を身につける。
- 研究指導科目は、個別指導による研究活動を通して、問題を発見して解決する能力、高度な専門的能力とイノベーション創出能力、予測困難な問題に対する柔軟な対応能力を身につける。さらに、企業との共同研究や学会活動等を通じて、学外者とも切磋琢磨しつつ協同する能力、自己を表現する能力、対人関係力等を併せて身につけることができる。

機械システム工学専攻

電気電子工学専攻

情報工学専攻

工学専攻

情報工学専攻 修士課程

【設置キャンパス：豊田】

情報工学専攻は、人と人をつなぐメディア技術と、それを構成するソフトウェア技術、及びその基盤となる情報システム技術に精通し、それらの技術を駆使して表現することにより、最終的に情報科学における高度な技術と知識を身につけ、それらを製品やシステムに組み込むことができる専門技術者、及び将来の情報技術への貢献に寄与できる研究者を養成します。

社会の中でのメディア・情報技術の役割を理解し、地域や国際社会の情勢も視野に入れつつ、工学のみならず、自然科学・社会科学の諸分野とも連携しながら、社会的責任を果たすことができる力を身につけることをめざします。

そのためカリキュラムでは、計算機システム、情報処理システム、画像情報処理、知能情報処理、メディアシステム、画像とCG、コミュニケーションと創造性等、それぞれに対して幅広く基礎を学ぶ特論科目と、分野ごとに専門的に学ぶセミナー科目を配置しており、これらの科目で身についた専門能力を活かしながら、特定分野の課題に関する専門的研究を実施し、修士論文としてまとめていきます。

具体的には、以下の3つの履修モデルに基づいた専門教育を行いつつ、学外交流及び地域や海外との連携を通して、実践的で視野の広い研究を展開します。

1. 情報システム分野では計算機システム、ネットワークシステムなどの情報システム系分野を中心に高度な専門知識・技術を身につける。
2. ソフトウェア開発分野では情報処理、データベース管理などのソフトウェア系分野を中心に高度な専門知識・技術を身につける。
3. 情報メディア分野ではメディア・インターフェース、メディア表現などの情報メディア系分野を中心に高度な専門知識・技術を身につける。

工学専攻 博士後期課程

【設置キャンパス】名古屋：機械システム工学専攻、電気電子工学専攻
豊田：情報工学専攻

工学専攻博士後期課程は、工学分野の主要領域である「機械システム工学領域」、「電気電子工学領域」及び「情報工学領域」の3領域を教育・研究の対象とし、各領域のスペシャリストとして深い専門知識を持ち、自立的な活動を行う研究者や先端的な製品の基盤となる新技術の開発ができる高度専門技術者を養成します。また、授業科目の夜間開講やメディアを利用した授業、社会人向けの特別入試制度など、社会人の方が働きながら学位取得を目指す体制を整えています。なお、情報工学領域の学生は豊田キャンパス、それ以外の領域は名古屋キャンパスを学びの拠点とします。

メディアを利用した授業：職業を有する社会人学生に対し、研究指導科目のみ電子情報メディアを利用して、自宅や職場など教室以外の場所で履修することが可能です。

教育課程

*以下は2020年5月時点の情報です。

工学研究科 修士課程

機械システム工学専攻

講義科目

研究者倫理、起業論、新エネルギーシステム特論、電気工学特別講義、機械情報学基礎1・2、情報計測学基礎1・2、人間工学基礎1・2

演習科目

機械計測論セミナー、メカトロニクス論セミナー、知能機械開発論基礎セミナー、知能機械開発論応用セミナー、ロボット知能論セミナー、画像センシング論応用セミナー、神経情報処理論基礎セミナー、神経情報処理論応用セミナー、画像処理論基礎セミナー、画像処理論応用セミナー、生産システム論基礎セミナー、生産システム論応用セミナー、感性情報処理論セミナー、環境材料工学セミナー

実習科目

インターンシップ

実験科目（演習を含む）

機械システム工学特別実験および演習1～4

修了要件

1. 専攻基礎科目4単位以上、専門科目8単位以上、研究指導科目4単位を含め、合計32単位以上修得すること
2. 修士論文を提出しその審査及び最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（工学）Master's Degree, Engineering

電気電子工学専攻

講義科目

研究者倫理、起業論、新エネルギーシステム特論、電気工学特別講義、技術表現論、最適化学、応用確率統計、数値解析、アルゴリズム工学、非線形システム特論、統計的学習論、半導体デバイス特論、高速信号伝搬理論、ハードウェア信頼性工学、システム設計工学特論、移動通信工学、電波応用工学、画像工学特論、誘電体材料工学特論

演習科目

システム制御工学セミナー、量子力学セミナー、画像工学セミナー、光エレクトロニクスセミナー、デジタルシステム設計セミナー、信号処理工学セミナー、非線形システムセミナー、プラズマ工学セミナー

実習科目

インターンシップ

実験科目（演習を含む）

電気電子特別実験および演習1～4

修了要件

1. 専攻基礎科目4単位以上、研究指導科目4単位を含め、合計32単位以上修得すること
2. 修士論文を提出しその審査及び最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（工学）Master's Degree, Engineering

情報工学専攻

講義科目

研究者倫理、起業論、計算論基礎1・2、計算機システム基礎1・2、ソフトウェアシステム基礎1・2、CGメディア基礎1・2、知識情報処理基礎1・2、画像情報処理基礎1・2、音響映像メディア基礎1・2、情報工学特別講義

演習科目

計算機アーキテクチャ論セミナー、オペレーティングシステム論セミナー、情報ネットワーク設計運用論セミナー、ネットワークコンピューティング論セミナー、データベース論セミナー、情報セキュリティ論セミナー、知識情報処理論セミナー、知識情報運用論セミナー、ソフトウェア設計論セミナー、ソフトウェア開発論セミナー、画像処理論セミナー、パターン認識論セミナー、コンピュータ・ビジョンセミナー、可視化シミュレーション論セミナー、コンピュータ・グラフィックスセミナー、メディア・インターフェース論セミナー、ネットワーク・メディア論セミナー、情報デザイン論セミナー、コラボレーション論セミナー、メディア・アート論セミナー、インスタレーション・アート論セミナー、音楽情報論セミナー

実習科目

インターンシップ

実験科目（演習を含む）

情報工学特別実験および演習1～4

修了要件

1. 専攻基礎科目4単位以上、専門科目8単位以上、研究指導科目4単位を含め、合計32単位以上修得すること
2. 修士論文を提出しその審査及び最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（工学）Master's Degree, Engineering

■工学研究科 博士後期課程

工学専攻

講義科目

機械システム工学特論Ⅰ・Ⅱ、電気電子工学特論Ⅰ・Ⅱ、情報工学特論Ⅰ・Ⅱ、
新機能創成工学特論Ⅰ・Ⅱ

演習科目

機械システム工学特殊演習1～3、電気電子工学特殊演習1～3、
情報工学特殊演習1～3

修了要件

1. 専門科目4単位以上(専門領域2単位以上を含む)、研究指導科目12単位(専門領域)を含め、合計16単位以上を修得すること
2. 博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること

取得可能な学位

博士(工学) Doctoral Degree, Engineering

学生の研究内容例(論文題目)

■修士課程

「外観検査装置設計における撮像素子と画像処理系の相互最適化法」
「ピッキングリスク概念の導入および把持安定性の高い局所形状の推定による物体把持計画立案手法に関する研究」
「手指部における触覚振動の刺激合成による印象特性の研究」
「局所適応最近傍補間を用いた反復逆投影法による超解像画像生成に関する研究」
「ミュージアム展示に向けた3Dコンテンツ自動生成システムの開発—メダル類のモデリング—」
「異常検知手法に基づいた経時天体画像からの変光星検出」
「料理写真の魅力度推定のための大規模教師付きデータ生成」

課程修了後の進路

本研究科修士課程の修了生は、工学の専門的な技術と知識を身につけ、それを製品やシステムの設計・開発に応用できる高度専門技術者及び研究者の養成を目指しています。機械システム工学専攻は、電気、コンピュータ関連の各種メーカーからソフト関連企業へ、電気電子工学専攻は、電気電子情報通信分野の企業や機械、自動車、精密等さまざまな業種へ就職者を輩出しています。情報工学専攻は、情報系企業や通信系企業、製造業への就職者や大学院博士後期課程への進学者を輩出しています。

専任教員

*以下は2020年5月時点の情報です。

〈職位別に50音順〉

●機械システム工学専攻(領域)

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
青木 公也 AOKI, KIMIYA 教授 博士(工学)	画像処理、コンピュータビジョン〈Image Processing/Computer Vision〉 主に画像処理の産業的応用、ロボットビジョンに関する研究を行っている。前者については、例えば半導体素子や溶接部の非破壊検査の自動化システムを提案し、産学連携で研究を進めている。後者については、次世代ロボットにおける知的ビジョンシステムの開発に従事し、距離画像処理を軸とする3次元物体・環境認識アルゴリズムを提案している。	博士：研 修士：研
井口 弘和 IGUCHI, HIROKAZU 教授 博士(工学)	感性情報処理論〈Kansei Informatics〉 環境や事象の変化をヒトは多面的に捉えて適応する力を有している。人に優しい環境やヒューマンインターフェース、及び人と共存する機械を創造するには、ソフトウェア情報としての感性の特性が必要となる。この観点から、心理・生理状態のセンシング技術とマルチモーダルな人間の特性を解析する情報処理論及び、その結果の活用法について論じる。	博士：研 修士：研
石原 彰人 ISHIHARA, AKITO 教授 博士(工学)	神経情報処理論〈Neuroengineering and Neuroinformatics〉 生物の感覚系や脳神経系における情報処理メカニズムに関する研究や、それをサポートする計算科学を応用した研究支援ツールの開発を行う。特に視覚系における動画処理機構に対して、構成するニューロンの細胞内組織レベルから詳細な数理モデルを構築し、生物の有する基本的な情報処理メカニズムの解明を目指している。	博士：研 修士：研
種田 行男 OIDA, YUKIO 教授 博士(医学)	健康増進学〈Health Promotion〉 現代の健康増進は健康障害が起こりやすい高リスク者を対象とするのみならず、比較的健康水準の高い集団をも対象としてその水準を長期に渡って維持するような保健活動が重要視されている。この実現には、情報や機械工学技術を活用したヘルスポモーション活動が不可欠であり、そのための研究開発を行う。	博士：研 修士：研
加納 政芳 KANOH, MASAYOSHI 教授 博士(工学)	知能ロボティクス〈Artificial Intelligence and Robotics〉 人と共生するためのロボットについて研究する。具体的には、1) ロボットの身体性に基づいた感情表出を行うことで、人とロボットとのコミュニケーションに心理的インタラクションを創発させる、2) 不確実性や想定外の変化が起こる実環境に適応的に対処するための制御則を、学習・進化を通じて自動的にロボットに獲得させる、3) ヒューマノイドロボットのモーション生成・制御時の非転倒性や非干渉性などをチーフデザインに基づいて制御する。	博士：研 修士：研

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
清水 優 SHIMIZU, MASARU 教授 博士 (情報科学)	自律移動ロボット / ロボット性能評価手法 〈Autonomous Mobile Robot/Evaluation Method on the Robot〉 小型自律移動ロボットのための要素技術の研究・開発、応用としてレスキューロボット開発とレスキューロボット・サービスロボット性能評価手法研究開発を行っている。 具体的には、小型移動ロボットへの実装を目標に、不整地や瓦礫内移動に対応するシンプルで効率の良い移動機構、軽量のロボット位置測定・地図作成システム、マルチロボットに対応した学習・行動計画ソフトウェアなどの開発、自律レスキューロボット・自律サービスロボットの安全性と性能評価手法の研究・開発に取り組んでいる。	博士：研 修士：研
沼田 宗敏 NUMADA, MUNETOSHI 教授 博士 (工学)	機械計測 〈Mechanical Measurement〉 表面性状計測・光計測・画像計測などに関する研究を行う。具体的には、1) 表面粗さ用ローパスフィルタの特性を研究する、2) 実用に適したロバストな計測手法を開発する、3) 三次元表面性状に関する新しい計測手法や評価手法を提案する。	博士：研 修士：研
野浪 亨 NONAMI, TORU 教授 博士 (工学)	生体材料 / 材料科学 〈Bio-material/Material Science〉 環境にやさしい (環境調和性)、人にやさしい (アメニティー性) 材料を開発する事を目的に、生体材料や環境保全材料、環境低負荷型材料の研究を行っている。例えば、人工骨や人工歯根として応用するための生体に同化するセラミックス、水や空気をきれいにしたり、皮膚や歯の審美性を追及する触媒や、生体を模倣した環境に負荷を与えない製造プロセスなど私たちが安心・安全に生活できる環境を実現する材料 (エコマテリアル) を作製し解析、評価を行う。	博士：研 修士：研
橋本 学 HASHIMOTO, MANABU 教授 博士 (工学)	知的センシング 〈Intelligent Sensing〉 ロボットのインテリジェント化のために不可欠な、人工知能に関する研究、とりわけ外界や人間を認識するための知的センシングに関する幅広い研究をおこなっている。特に近年では、「人間の眼」に相当する高度な視覚機能の実現を目指し、世界最高速の画像パターン照合技術や、高精度な3次元物体認識技術、人間の感情や感性を読み取るためのセンシング技術の開発に成功している。また、これらの独自技術を知能ロボットと融合させるための応用開発にも取り組んでおり、Deep Learning などの最新のコンピュータサイエンスを駆使した実用レベルの知覚システムを実現している。	博士：研 修士：研
森島 昭男 MORISHIMA, AKIO 教授 博士 (工学)	ロボティクス / メカトロニクス 〈Robotics/Mechatronics〉 本研究室では、強大な出力が要求される災害現場・工事現場の極限作業ロボットから、超精密な動作が必要な手術用マイクロロボット、また、柔軟な制御が欠かせない生活環境ロボットなど、多様な環境におけるロボットを研究対象とする。そして、それぞれの動作環境に最適な形態としてのロボットのデザインを行い、それを実現するためのメカニズム・センサ・アクチュエータなどの設計・製作を行う。さらに、そのロボットの能力を最大限発揮させるための制御アルゴリズムの考案・プログラミングを行う。そして上記全ての検証は、実機のロボットを用いた動作実験により行っていく。	修士：研
王 建国 JIANGUO, WANG 准教授 修士 (工学)	経営組織論 〈Organization Theory〉 経営組織論は企業の経営活動を円滑に効率よく進めるための分業と協力のあり方を探求する学問である。企業の生産現場から、国民経済・世界経済に至るまで様々なレベルでの経済現象を「競争」と「協働」という二つの観点から捉えられるし、編成することもできる。「協働」と「競争」の視点から経済システム全体を包括し得る枠組みを構築することを研究の目標としているが、実証研究も重視し、特にトヨタ生産システムに代表される生産管理の研究に関心をもっている。	修士：研
木野 仁 KINO, HITOSHI 准教授 博士 (工学)	ロボット工学 / 人間工学 〈Robotics/Human Engineering〉 本研究室では、機械工学をベースにメカトロニクスや制御工学、人工知能などを合わせた研究として、特にロボット工学・人間工学とその周辺分野の研究を行なう。具体的には、レスキューロボットやロボットマニピュレーション、次世代産業用ロボット、歩行ロボットや生体の筋骨格構造などのテーマに対し、理論解析やシミュレーション、実機による実証実験などを通じて研究を進めていく。	博士：研補 修士：研

●電気電子工学専攻 (領域)

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
磯 直行 ISO, NAOYUKI 教授 博士 (工学)	設計自動化 〈Design Automation〉 近年の集積化技術の発展により、VLSI やプリント配線板などの論理装置の設計データ量が増大している。さらに、今まで考慮していなかった物理的性質が顕在化するようになり、多くの制約を満足できるより良い解を高速に求められる新しい設計手法が望まれている。装置の設計開発期間の短縮のため、効率の良い設計手法や CAD アルゴリズムの開発を行っている。	博士：講 修士：研
上林 真司 UEBAYASHI, SHINJI 教授 博士 (工学)	電波工学 〈Electromagnetic Wave Engineering〉 電波工学、電波応用工学、無線通信工学をカバーする。当面は、電波を用いた呼吸・心拍測定技術の研究、高周波数帯における電波伝搬特性の解明 (電磁界解析手法を用いた電波伝搬評価法等)、超高速無線伝送技術の研究 (見通し環境における MIMO 無線伝送技術等)、移動通信における位置推定技術の研究 (基地局一端末間の見通しが無いときの位置推定法等) を研究テーマとする。	博士：研 修士：研

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
高坂 拓司 KOUSAKA, TAKUJI 教授 博士 (工学)	断続システム論 (Interrupted System Theory) 数学と数値解析法を組み合わせることにより、非線型システム、とくに断続動作特性を有するシステムに見られる現象の柔らかな理解を進めている。また、これまでに提案した分野横断的解析手法の知見を活かし、スイッチング電源における電力変換効率の向上、振動切削系の高性能化、ネットワークルータの通信性能改善、化学系の mixed-mode 振動解析等の技術開発を行なっている。	博士：研 修士：研
須田 潤 SUDA, JUN 教授 博士 (理学)	計算材料科学/光物性工学 (Computational Materials Science / Solid State Photonics) スーパーコンピュータの出現により、実験が極めて困難な物理現象の情報を短時間で得ることが可能になり、産業界においては、大規模シミュレーションの精密な予測により、製品設計において大幅なコストダウンをもたらすと期待されている。本研究室では、大規模シミュレーションとラマン分光実験の両面から光エレクトロニクス材料やパワーエレクトロニクス材料の高性能化を目的とする研究に取り組んでいる。	博士：研 修士：研
田口 博久 TAGUCHI, HIROHISA 教授 博士 (工学)	量子効果デバイス工学 (Quantum Effect Device Technology) Si を材料系とする電界効果トランジスタ (FET) の高性能化は微細化が中心となってきた。しかし材料系を化合物半導体とし、同時に化合物半導体のナノスケール積層構造を使用することにより、量子効果を得て FET 内部での電子速度の劇的な向上を得た。量子効果デバイスは様々な化合物半導体を用いて構築され実に多彩な性能を示す。これらの量子効果デバイス物性を高周波応答特性と光応答特性の両面から追求し、デバイス内部での電子挙動モデルの解明や、新規デバイス構造の提案・開発を目指す。	博士：研 修士：研
ハルトノ ピトヨ HARTONO, PIToyo 教授 博士 (工学)	計算知能 (Computational Intelligence) 計算機を用いた従来の情報処理アルゴリズムと自然界で見られる「知能的」な問題解決手法の間に大きな相違点がある。計算知能の分野では、計算機を用いて神経回路の学習能力、生物又は社会で見られる自己組織化や創発的な集団知能のような従来と異なる問題解決メカニズムの実現を目指す。これにより、新しい計算原理を構築できるだけでなく、生物学、物理学、工学や社会科学などの様々な分野に対し、新しい解析手法と知見を与えることが期待できる。	博士：研 修士：研
山中 公博 YAMANAKA, KIMIHIRO 教授 博士 (工学)	エレクトロニクス実装工学 (Electronics Packaging Technology) ますます高性能・小型化する携帯機器、さらに高性能化するサーバやスーパーコンピュータ、そして、環境対応へ加速しているハイブリッド車や電気自動車。いずれも、日本の得意分野であり、ものづくりの根幹であるエレクトロニクス実装技術なしには成り立たない製品である。研究室では、マイクロ接合技術とその信頼性技術、ギガ Hz デジタル信号の伝搬設計技術、環境にやさしいグリーンエレクトロニクス開発など、ハードウェアをコアにした技術を工学の観点から研究している。	博士：研 修士：研
青森 久 AOMORI, HISASHI 准教授 博士 (工学)	知的情報処理 (Intelligent Information Processing) 生体の情報処理機構は、非線形素子である神経細胞が複雑に結びついたネットワークの機能により実現されているが、その原理は不明な点が多い。このため、脳や生体にヒントを得た情報処理機構を工学的に実現するだけでなく、神経回路網のダイナミクスの解明や網膜系情報処理機構のモデル化を理論・計算機シミュレーションなどを通して多角的に研究を推進する。	博士：研補 修士：研
平名 計在 HIRANA, KAZUAKI 准教授 博士 (工学)	ロボット制御 (Control of Robotic System) 離散値と連続値が混在する動的システムをハイブリッドダイナミカルシステムといい、近年注目を集めている。機械システムをハイブリッドダイナミカルシステムと捉え、従来容易ではなかった分野へのロボットの適用を図る。また、人間-機械システム、あるいは人間自体をハイブリッドダイナミカルシステムとして取り扱うことで様々な分野への応用を模索する。	博士：講 修士：研
村中 崇信 MURANAKA, TAKANOBU 准教授 博士 (工学)	宇宙機工学/プラズマ工学 (Spacecraft Engineering / Plasma Engineering) 近年、人工衛星による通信等のインフラは日常生活に不可欠となり、また宇宙探査機による深宇宙探査も拡大しつつある。これらの宇宙機 (人工衛星や探査機) は、ミッション中に発生する宇宙プラズマや電気推進機から放出されるプラズマとの相互作用で、その信頼性に大きく影響を受けることが知られている。本研究室では、数値シミュレーションとプラズマ実験でこの相互作用を解析し、宇宙機の信頼性向上につながる技術開発を行っている。	博士：研補 修士：研

●情報工学専攻 (領域)

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
伊藤 秀昭 ITO, HIDEAKI 教授 博士 (工学)	知識工学/データ工学 (Knowledge and Data Engineering) 知識工学及びデータ工学は、情報の表現と利用法を高度化するための技術である。知識やデータを計算機で利用するには、より適切な方法でそれらを表現し、表現された対象の検索や更新が適切に行われるようなツールの整備が望まれる。このために知識やデータを表現するための人工知能を応用したソフトウェアツールを研究開発している。	博士：研 修士：研
大泉 和文 OIZUMI, KAZUFUMI 教授 博士 (メディア科学)	メディア・アート (Media Art) 今日、メディア・アートと総称される、情報メディアを支援ツールとした視覚芸術を専攻する。作家の立場から、アートとテクノロジーの諸問題を取り扱う。具体的には、① CTG (Computer Technique Group) を中心としたメディア・アート史の研究 ② インタラクティブな機構を取り入れた大規模インスタレーション作品の制作などを進めている。	博士：講 修士：研

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
小笠原 秀美 OGASAWARA, HIDEMI 教授 博士 (情報科学)	認知モデル (Cognitive Modeling) 認知科学、特に学習や実時間環境での認知に興味を持っている。そのために二値データに基づくクラスタリング、高時間圧を持つ課題を用いた問題解決に関する心理実験・観察及びそのデータに基づく計算機モデルの作成などの研究を行っている。またこれらの研究のベースとなる Soar などの認知アーキテクチャにも関心がある。	博士：講 修士：研
カール・ストーン CARL, STONE 教授 bachelor of fine arts	コンピュータミュージック (Computer Music) A composer researching advanced techniques in music software design, digital signal processing, performance, real time music networks and non-real time audio processing techniques. Recent works includes multi-channel sound installation at Kyoto Art Center and performance at Nagoya City Museum Planetarium. Recent performances in Berlin, Paris, Oslo, Taiwan, Tokyo etc. 3-LP retrospective released September 2016 on Unseen Worlds record (USA), selected by The Wire UK as Best Release of 2016 (Archival Category).	修士：研
鈴木 常彦 SUZUKI, TSUNEHICO 教授 工学士	地域ネットワーク基盤技術 (Regional Network Infrastructure Technology) ・地域ネットワーク基盤技術：東京一極集中の日本のインターネットを地域分散するための、ルーティング (地域 IX)、コンテンツ配信技術等の研究 ・セキュリティ技術：DNS の諸問題解決、spam 対策技術開発等、インターネット崩壊の危機に対処するための研究	修士：研
瀧 剛志 TAKI, TSUYOSHI 教授 博士 (情報科学)	映像処理と可視化 (Image Processing and Intelligent Visualization) 画像処理とコンピュータグラフィックスの基本技法の修得、及び、それらを基礎とした応用システムの開発に主眼をおく。特に、人の動作・行動をビデオカメラやモーションキャプチャ装置により取得し、映像や座標データから、行動の意味や目的を分析したり、また、コンピュータグラフィックスやバーチャルリアリティ機器を用いて動作・行動の特徴を分かりやすく表現するための情報提示技術について研究・開発を行う。	博士：研 修士：研
長谷川 明生 HASEGAWA, AKIUMI 教授 理学博士	ネットワークセキュリティ (Network Security) コンピュータのオペレーティングシステムやコンパイラ等のシステムソフトウェアの構造や構成についてシステム・プログラミング技術を習得することを通して、理解する。また、それらの基礎知識の上に立ち、ネットワークを構成する技術について、その構造やソフトウェアの構成を理解し、コンピュータシステムのセキュリティについて幅広く研究する。	博士：講 修士：研
長谷川 純一 HASEGAWA, JUNICHI 教授 工学博士	画像処理と物体認識 (Image Processing and Object Recognition) 画像処理と物体認識は、人間の高度な視覚情報処理をコンピュータで実現しようとする研究領域である。そのためには、2次元画像、3次元画像、あるいは、動画などの処理手法やその組み合わせ方を知ることはもちろん、対象物体そのものの知識やその画像上での見え方をよく理解した上で、適切かつ斬新な抽出手順や認識手順を構築することが必要になる。この技術はすでに、産業、航空・宇宙、医療、交通など多くの分野で応用されているが、今後さらに多くの分野で新しい応用が期待されている。	博士：研 修士：研
濱川 礼 HAMAKAWA, REI 教授 工学士	知的情報工学 (Intelligent Information Engineering) 知的情報工学という観点から、コンピュータ情報をユーザ毎にカスタマイズして利用できるインタラクションを中心に研究を進めている。開発対象となるシステムは、最新のデバイス (全天球カメラ、ヘッドマウントディスプレイ等) と組み合わせて、マルチメディアシステム、検索システム、適応型環境提供、ネットワーク・Web 応用システム等多岐に及ぶ。	修士：研
宮崎 慎也 MIYAZAKI, SHINYA 教授 博士 (工学)	リアルタイム CG 応用 (Real-time Computer Graphics Applications) コンピュータのグラフィックス能力の飛躍的な向上により CG を利用した究極のマンマシンインターフェイスが到来した。人工現実感 (VR) は現在のコンピュータグラフィックスの主な活用分野の一つであり、この分野で今後重要視される技術として、非剛体物体のモデリング、立体表示システムを中心に新しい VR 技術の実現を目指す。リアルタイム CG は、アミューズメントの分野をはじめとして工業、医療など様々な分野で活用されており、将来性が期待されている技術である。それらを実現するために必要となるプログラミングやデバイス制御、アルゴリズムとデータ構造設計について幅広く研究を進めている。	博士：研 修士：研
宮田 義郎 MIYATA, YOSHIRO 教授 ph.D. (心理学)	メディアと文化 (Media and Culture) 日常使用している道具や製品のグローバルな生産過程が見えなくなり、消費者と生産者が分断されたことで、エネルギー、環境などの問題の解決が困難になっている。これらの問題の構造を解明し、ローカルな日常をグローバルな視点から見直すモノ作りの在り方を研究する。一般ユーザーや子供達が、必要なモノをローカルな資源と技術を活かして制作し、30カ国以上が参画する World Museum Project でグローバルにもコラボレーションするコミュニティーを展開していく。	博士：研 修士：研

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
目加田 慶人 MEKADA, YOSHITO 教授 博士（工学）	医用画像処理とコンピュータビジョン〈Medical Image Processing and Computer Vision〉 医用画像の診断支援技術に関する研究をおこなう。特に、肺、肝臓、胃を中心に、コンピュータ支援画像診断システムの実現のための技術開発として、臓器の抽出、病変の検出やその進行の程度評価、治療支援に関する手法開発に取り組む。 コンピュータビジョン技術の実用に関する研究として、自動車内・車外の環境センシングと状況認識に挑戦する。	博士：研 修士：研
山田 雅之 YAMADA, MASASHI 教授 博士（工学）	知能情報処理〈Artificial Intelligence〉 知的に振舞うメディアの実現を目的に知能情報処理の基盤技術とその応用を研究する。具体的には、画像処理やコンピュータグラフィックスなどの画像メディア技術と知能処理技術を利用した新しいインタラクションの研究、デジタルファブリケーションに関連する基礎理論や知的支援技術、システムの開発を進めている。	博士：研 修士：研
ラシキア 城治 LASHKIA, GEORGE 教授 理学博士	計算科学〈Computational Science〉 主に情報科学におけるIT分野の研究を行っている。基本的には、コンピュータの自己学習、ウェブコンピューティング、ネットワークセキュリティ、言語処理、最適化、ソフト開発など。	修士：研
上芝 智裕 UESHIBA, TOMOHIRO 准教授 専攻科	メディア・アート〈Media Art〉 インタラクションやインターフェイスの領域を中核としたメディアアートの研究と制作。コンピュータパワーやネットワーク資源を潤沢に手にすることが可能となった現在、[作者]—[作品]—[鑑賞者]間の相互作用に新たな質的变化の可能性を探り、作品の制作と発表との両面における新しいシステムの構築を研究テーマとしている。近年、softpad というグループ名義で、デザイン、Web、ビデオ、音楽等、ジャンルを越えた幅広い作品の制作及び発表を行っている。	修士：研
曾我部 哲也 SOGABE, TETSUYA 准教授 修士（デザイン工学）	メディア・アート〈Media Art〉 映像メディアを主に扱い、インスタレーション作品、実写映像作品、CG映像の研究と制作を行っている。また、障害を持つ人の芸術作品制作の支援を行っており、デジタルメディアを用いた活動支援についての研究にも取り組み始めている。	修士：研
土屋 孝文 TSUCHIYA, TAKAFUMI 准教授 文学修士	ヒューマンコンピュータインタラクション〈Human Computer Interaction〉 コンピュータを用いた協調的作業や自然言語コミュニケーションの支援に関する研究を行っている。ネットワーク上の支援ソフトウェアの開発と評価が中心であるが、その設計には、認知的作業を支える知識や推論に関する人工知能的研究、コミュニケーションに関する言語学的研究、グループダイナミクスに関する社会的研究が含まれる。	修士：研
道満 恵介 DOMAN, KEISUKE 准教授 博士（情報科学）	人の行動支援のための画像処理〈Image Processing to Support Human Activity〉 画像処理・パターン認識の基礎技術、及び、それらを用いた人の行動支援への応用を専攻する。具体的には、自動車運転支援のための走行環境理解に関する技術として、車載カメラ映像からの物体検出・認識、ドライバの視覚認知状態の推定等を研究している。また、料理支援のための映像解析に関する技術として、調理動作の認識、調理過程映像の要約、料理レシピのマルチメディア化等を研究している。	博士：研補 修士：研
中 貴俊 NAKA, TAKATOSHI 准教授 博士（情報科学）	ICTメディア応用とインターネット〈ICT and Media Applications〉 ネットワーク技術やコンピュータグラフィックス技術を中核として、スマートデバイスを含むICTメディアを活用した研究をする。具体的には、3DCGやネットワーク技術を活用したタブレット端末に向けたデジタル教材開発やその活用など、教育、芸術、産業分野への幅広い社会応用についての研究を行っている。	博士：研補 修士：研
鬼頭 信貴 KITO, NOBUTAKA 講師 博士（情報科学）	超高速・高信頼論理回路の設計自動化〈Design automation of high-speed/dependable logic circuits〉 マイクロプロセッサなどの論理回路は回路素子の微細化により高性能間が進んだが、同時に消費電力の増大や、回路の動作時に誤りが生じるなどの問題が起こるようになった。そこで、2つの研究を進めている。一つは、低消費電力で高速動作が可能だが従来の半導体回路とは異なる性質を持つ超伝導単一磁束量子回路のための設計自動化手法の研究。もう一つは、一般の半導体回路について、回路の動作時の誤りを検出可能な論理回路や、故障に強い論理回路の設計とその自動化の研究である。	博士：講 修士：研
村田 晴美 MURATA, HARUMI 講師 博士（工学）	音響信号処理〈Acoustic Signal Processing〉 音楽を対象とした情報処理に関する研究をしている。特に、インターネット上で不正に配信されることが多い音楽に対する著作権の保護を目的とした電子透かし技術について取り組んでいる。また、楽曲を自動で楽譜に書き起こす自動採譜に関連する研究も進めている。	博士：講 修士：研

※担当について

博士：研……………博士後期課程研究指導教員
 博士：研補……………博士後期課程研究指導補助教員
 博士：講……………博士後期課程講義担当教員

修士：研……………修士課程研究指導教員
 修士：研補……………修士課程研究指導補助教員
 修士：講……………修士課程講義担当教員

教員に関する詳細は以下↓から検索できます。

中京大学公式ホームページ→「中京大学研究者業績データベース」
<https://www.chukyo-u.ac.jp/>



沿革

- 1974年 4月 体育学研究科体育学専攻修士課程開設
- 1987年 4月 体育学研究科体育学専攻博士後期課程開設
- 2021年 4月 体育学研究科体育学専攻をスポーツ科学研究科スポーツ科学専攻に名称変更予定

概要及び特色

本研究科は体育学研究科として1974年に開設され、40年以上の歴史を誇ります。私立大学の体育科学系大学院として日本で初めて博士後期課程を開設するなど、常に先進的な試みに挑戦。今日まで実に83名の院生・研究者に博士（体育学）の学位を授与してきたことも先進的教育の軌跡の証しです。体育、運動、スポーツは、人間の精神と身体を動員して行われる活動であるだけでなく、社会的な意味をもつ営為としても存在します。それへの研究アプローチはさまざまな問題意識から可能で、そうした特性に対応すべく、本研究科は極めて多様な専門性を有する優れた指導者を教授陣に擁しています。博士前期課程では研究者の養成のみならず専門的知識と教養を備えた職業人の育成に力を注ぎ、また博士後期課程では体育学・スポーツ科学および健康科学にかかわる研究を独自に進めることのできる先進科学者の育成に貢献しています。

近年、さまざまな面で体育・スポーツに対する関心・需要が高まっていることから、こうした社会の要望に適切に対処するため、本研究科では体育・スポーツに関する高度でかつ多面的な研究が不可欠であるとの認識に立って教育・研究に取り組んでいます。総合科学としてのスポーツ科学の特徴をふまえ、以下の5つの系からカリキュラムを編成し、研究指導などを行っています。

※基礎となる学部である「スポーツ科学部」との連動性を明示するため、2021年4月に「体育学研究科体育学専攻」から「スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻」に名称変更する予定です。

スポーツ文化・社会科学系

スポーツにかかわる思想・文化・歴史・社会・教育・政治・法律・経営・経済・産業など、文化事象として、社会現象として、また制度として認識されるスポーツを、幅広い問題意識のなかで捉え、科学的方法論に即して分析・検討を加える。

スポーツ認知・行動科学系

スポーツにおける心理的問題の解決を基本課題とする系である。従来の心理学的方法とスポーツ科学の方法との統合を目指しながら、スポーツ行動に関する認知的問題、メンタルトレーニングの問題、計量的問題、臨床心理的問題、発達と加齢の問題などについての教育・研究を進める。

スポーツ生理学系

運動によって起こる身体の変化と、運動を可能にする身体の仕組みを、形態・生理・生化学的に幅広く研究する。このような研究から、身体運動を通じて達成される体力の強化、活動力の向上、健康の増進、疾病の予防や老化の防止、疾病の治療の基礎になる資料などを得ることを目的とする。

スポーツ健康科学系

人の健康は、遺伝・環境・行動の諸要因の複雑な関連の上に成り立っている。これら諸要因と健康の関連を、傷病の予防及び健康の維持・増進の観点から研究する。主な課題は、健康の維持・増進と運動、スポーツ障害の予防、傷病からのスポーツ復帰、保健行動、様々な社会要因と健康の関連などである。

応用スポーツ科学系

研究の中核にバイオメカニクスをおき、その他の多分野、たとえば生理学、心理学、教育学などの研究方法も取り入れ、学際研究的な科学を目指す。これらの研究結果を新しいトレーニング法、コーチング法に応用するための研究を進める。

教育課程

*以下は2020年5月時点の情報です。

博士前期課程（修士課程）

- 〈スポーツ文化社会科学系〉
 - スポーツ原論研究、スポーツ原論特殊講義、スポーツ史研究、スポーツ経営学研究、スポーツ法学研究、スポーツ社会学研究Ⅰ・Ⅱ、スポーツ文化社会科学特論Ⅰ～Ⅲ
- 〈スポーツ認知・行動科学系〉
 - スポーツ認知行動論研究、臨床スポーツ心理学研究、実験スポーツ心理学研究、健康心理学研究、スポーツ行動計量論研究、幼児体育論研究、スポーツ脳科学研究
- 〈スポーツ生理学系〉
 - スポーツ栄養学研究、スポーツ生理学研究A～D、温熱生理学研究
- 〈スポーツ健康科学系〉
 - スポーツ健康学研究、スポーツ医学研究、疫学研究、スポーツ衛生学研究、機能解剖学研究、運動医科学研究
- 〈応用スポーツ科学系〉
 - バイオメカニクス測定法研究A・B、スポーツバイオメカニクス研究、コーチング論研究、トレーニング論研究、コンディショニング研究
- 〈各系共通〉
 - スポーツ科学研究総論、スポーツ科学研究法ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB、ⅢA・ⅢB
保健体育授業研究法、研究セミナー1～4、研究指導1～4

修了要件

1. 研究指導および研究セミナー各8単位、所属系以外の10単位以上を含む合計32単位以上を修得すること
2. 修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（スポーツ科学） Master's Degree, Health and Sport Sciences

博士後期課程

講義科目

スポーツ文化・社会科学特殊研究A・B、スポーツ認知・行動科学特殊研究A・B、
スポーツ生理学特殊研究A・B、健康科学特殊研究A・B、
応用スポーツ科学特殊研究A・B

演習科目

研究セミナー1～6、研究指導1～6

修了要件

1. 研究指導および研究セミナー各12単位以上を含む合計28単位以上を修得すること
2. 博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

博士（スポーツ科学） Doctoral Degree, Health and Sport Sciences

取得可能な資格

- 博士前期課程（修士課程） 中学校教諭専修免許状（保健体育）、高等学校教諭専修免許状（保健体育）
※ただし、すべて1種免許状を取得している者に限る。

学生の研究内容例（論文題目）

- 博士前期課程（修士課程） 「卓球選手の局所脳灰白質の発達」
「男子モーグルワールドカップ世界トップ選手のターン動作の特徴」
「一次運動野への陽極 tDCS がジャンプパフォーマンスに与える影響」
「柔道の太外刈りの投込みによるバランス機能、輻輳近点への影響」
「児童の健康関連体力及び運動能力と社会経済状況との地域的関連」
「女子バスケットボール選手の後方への方向転換動作における膝関節の力学的分析」
「女子やり投げ競技者における成功試技と失敗試技が生じる動作要因の検討」
- 博士後期課程
「バレーボール選手および水泳選手のジャンプ高に関連する因子の比較検討」
「健康運動としてのカンフー体操の運動強度と中高齢者の体力に及ぼす影響に関する研究」
「成人の運動・スポーツ実施促進条件に関する社会学的研究—実施経験のジェンダー差に着目して—」
「第11回オリンピック冬季競技大会（札幌大会）における恵庭岳滑降競技場建設問題に関する歴史学的研究」
「陸上競技におけるハムストリング肉ばなれの予防に向けた疫学研究」
「競泳のクロールにおけるトレーニング強度指標としての critical swimming velocity と critical stroke rate の検証とその応用」

課程修了後の進路

総合科学である体育学そして健康科学の高度な専門知識を身につけた修了生は、高等教育機関の研究者・教育者、競技スポーツの指導者・トレーナーなどの専門的な職業のほか、中学校・高等学校教員、自治体や企業などの様々な領域で活躍しています。

専任教員

* 以下は2020年5月時点の情報です。

〈職位別に50音順〉

●スポーツ文化・社会科学系

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
石堂 典秀 ISHIDO, NORIHIDE 教授 修士（法学）	スポーツ法学〈Sport Law〉 スポーツ事故、プロスポーツ契約、ドーピング違反、セクハラ・パワハラ等、スポーツから生じる様々な問題や事象の多くは法やルールと密接に結びついている。国際的にはスイスのスポーツ仲裁裁判所（CAS）の判断は、オリンピックなどの国際競技に重要な影響を与えており、国際的なスポーツ法研究にも関心を有している。	博士：講 修士：研
菊池 秀夫 KIKUCHI, HIDEO 教授 Ph.D.（学術）	スポーツ経営学〈Sport and Recreation Management〉 スポーツやレクリエーション・サービスの提供に関わるミクロ・マクロの問題について、消費者志向であるマーケティングの立場から検討している。参加者のニーズやベネフィット、選好、満足度等の把握をはじめとして、様々な消費者行動の分析枠組みに基づき、適切なサービスのあり方とそれを提供するシステムづくりについて関心がある。	博士：研 修士：研
千葉 直樹 CHIBA, NAOKI 教授 博士（体育学）	異文化スポーツ学〈Cross-Cultural Sports〉 スポーツのグローバル化に関心をもち、外国人スポーツ選手の視点を通して、日本スポーツ文化の特質を相対化してきた。比較文化という手法を通して、日本スポーツ界に起る暴力問題、ミシェル・フーコーの理論に基づくバスケットボール指導者のコーチング哲学、運動部活動の改革について研究している。	博士：講 修士：研
來田 享子 RAITA, KYOKO 教授 博士（体育学）	スポーツ史〈Sport History〉 スポーツ史専攻。特にオリンピック・ムーブメントの歴史に焦点をあて、スポーツ組織の権力のダイナミクス、ジェンダーなどの観点から国内外の史料を検討している。また、この検討で得られた歴史的知見をベースに、より多様な人々のスポーツの権利を保障するために必要とされる社会環境やスポーツそのものの変容についても考えている。	博士：研 修士：研

●スポーツ認知・行動科学系

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
荒牧 勇 ARAMAKI, YU 教授 Ph.D.（理学）	スポーツ脳科学〈Sports Neuroscience〉 スポーツや日常動作に関する運動・認知メカニズムについて脳科学の手法でアプローチしている。MRI 脳構造・機能画像によるスポーツ競技ごとの脳の特性やトップアスリートの脳の特徴、身体トレーニング介入による脳の変化、スポーツ時の脳波計測、経頭蓋電気刺激を用いた運動・感覚・認知の操作などが研究テーマである。	博士：研 修士：研
家田 重晴 IEDA, SHIGEHARU 教授 修士（科学）	学校保健学〈School History〉 これまで、保健行動に影響する要因についての研究、学校における健康教育内容体系に関する検討、交通安全教育、子どもの危機管理に関する研究などをしてきた。近年は主に、喫煙防止教育や脱タバコ対策に関する研究や活動をしている。	博士：研 修士：研

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
小磯 透 KOISO, TOHRU 教授 博士 (体育科学)	保健体育科教育 (Pedagogy of health and physical education) 学校現場を主なフィールドとして、体育や保健の授業づくり、教材づくり、その授業の成果や分析、教師行動や児童・生徒の学習活動など、実践的な課題に取り組んでいます。また、ミャンマーやスリランカなど、アジア周辺での学校教育改善の協力、研究にも関わっています。 (参考) 家田重晴 編著:「保健科教育 改訂第4版」(杏林書院)2020. 家田重晴・勝亦紘一・柰子耕一 編:「新しい体育の授業づくり」(大日本図書)2020.	修士:講
野田 智洋 NODA, TOMOHIRO 教授 博士 (コーチング学)	コーチング学、スポーツ運動学、体操競技方法論 (Coaching Theory, Phenomenological kinematics, Sport Methodology-Gymnastics) 学習者が映像情報の観察によって運動経過を把握する能力に影響を与える要因を研究しています。低学年の児童には連続写真より動画映像を提示した方が良かったことが分かりました。再生方法の違いが与える影響を明らかにすることが今後の研究テーマです。また、体操競技や器械運動における技の効果的な指導方法の開発と普及を進めていきます。	修士:講
山田 憲政 YAMADA, NORIMASA 教授 博士 (教育学)	知覚・運動科学、スポーツ心理学、スポーツ・バイオメカニクス (Perception and motor system, Sport Psychology, Sport Biomechanics) 身体運動を、心理、力学を統合する情報概念から包括的に捉え、アスリートの知覚、知覚と動きのダイナミクス、運動学習のメカニズム、運動情報の伝達メカニズムにアプローチする。	博士:研 修士:研

●スポーツ生理学系

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
梅村 義久 UMEMURA, YOSHIHISA 教授 博士 (保健学)	運動生理学 (Exercise Physiology) 運動又はトレーニングに対する身体の生理学的な適応に関する研究で、特に骨及び筋について検討している。骨に関する研究においては、骨強度を高める運動様式や運動方法及び骨の適応について研究をしている。筋については、筋・腱複合体の弾性などについて検討している。	博士:研 修士:研
松本 孝朗 MATSUMOTO, TAKAAKI 教授 博士 (医学)	環境生理学・運動生理学 (Environmental Physiology, Exercise Physiology) 環境が生体機能に及ぼす影響について研究する分野を環境生理学という。中でもヒトの暑熱適応、特に熱帯地住民の長期暑熱順化を主テーマとして取り組んできた。最近は運動・スポーツ・健康を中心とし、運動時の人の体温調節・エネルギー代謝への雨・風の影響、運動後の疲労回復法、ボクシングの減量、熱中症の予防、オリンピック・パラリンピックの暑熱対策など、幅広い研究を行っている。	博士:研 修士:研
大家 利之 OHYA, TOSHIYUKI 准教授 博士 (体育学)	運動生理学 (Exercise Physiology) エリート競技選手の体力特性の解明や高強度運動パフォーマンス向上のためのトレーニング方法の開発について、エネルギー供給機構の観点からアプローチしている。その中でも特に、サッカーやバスケットボールなどのゴール型球技の選手に着目して研究を行っている。	博士:講 修士:研

●スポーツ健康科学系

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
坂本 龍雄 SAKAMOTO, TATSUO 教授 医学博士 (小児科学)	スポーツ健康科学 (Sports and Health Science) わが国では数次にわたり国民健康づくり対策が展開されてきた。2013年度から取り組まれている「健康日本21 (第2次)」では、生活習慣病の一次予防が最重要課題と位置づけられている。この専攻分野では、疾患の医学的な発症メカニズムだけでなく、疾患予防のための生活習慣のあり方、とりわけ運動・スポーツの意義について理解を深める。	博士:研 修士:研
清水 卓也 SHIMIZU, TAKUYA 教授 博士 (医学)	スポーツ医学 (Sports Medicine) 近年、スポーツ障害は、core stabilization を基盤とする運動連鎖の破綻により生じるという考え方が提示されている。運動連鎖における四肢の動作パターンと、スポーツ障害の関係を解析することを、主な研究テーマとしている。ほかに、スポーツ障害の発生状況から、発生要因を明らかにすることもテーマとしている。	博士:研 修士:研
光山 浩人 MITSUYAMA, HIROHITO 教授 博士 医学 (機能構築医学)	スポーツ医学、整形外科学 (Sports Medicine, Orthopedic Surgery) 競技スポーツのみならず生涯を通じた健康スポーツの観点からも関節機能は運動レベルや日常生活における活動性ひいては生活の質に直結している。関節機能を軟骨代謝や靭帯機能さらに筋肉・腱との関連から明らかにする。また関節機能と運動連鎖を解析し運動能力の向上とスポーツ傷害の予防・治療のための研究を行う。	博士:研 修士:研
渡邊 文真 WATANABE, TAKEMASA 教授 博士 (医学)	公衆衛生学 (Public Health and Preventive Medicine) 「何かができる・できない」という能力あるいは「何かをする・しない」という行動は、生活している環境の修飾を受けている。人とその生活環境との関わりを考究することにより、その人たちへの健康支援サービスはより豊かなものになる。運動・スポーツと健康との関わりについて、ヒト集団を対象として疫学的・行動科学的研究を実施している。	博士:研 修士:研

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
倉持 梨恵子 KURAMOCHI, RIEKO 准教授 博士（人間科学）	アスレティック・トレーニング〈Athletic Training〉 アスリートは常に怪我の危険と隣り合わせである。アスレティック・トレーニングはアスリートが抱えるスポーツ外傷・障害の予防を目標とし、その評価、応急処置、アスレティック・リハビリテーション、コンディショニングを包括的に扱う。特に運動器のスポーツ外傷・障害の要因を探求し、怪我をしにくい身体づくりのための方策を模索する。	博士：研 修士：研

●応用スポーツ科学系

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
桜井 伸二 SAKURAI, SHINJI 教授 博士（教育学）	スポーツバイオメカニクス〈Sport Biomechanics〉 Bio（生命あるいは生体）と Mechanics（力学あるいは機序）の合成語であるバイオメカニクスは、狭義には生体の構造や機能を力学的観点から解明する科学であり、広義には「身体の運動」の全般に関する科学である。力学、解剖学、生理学の基礎知識と、ビデオ画像解析、フォースプレート、筋電図などの分析法を用いて、歩・走・跳・投・打などスポーツの動作をより深く理解しようと試みる。	博士：研 修士：研
田内 健二 TAUCHI, KENJI 教授 博士（体育科学）	スポーツバイオメカニクス・トレーニング科学〈Sport Biomechanics, Training Science〉 バイオメカニクス分野の動作分析、あるいは生理学分野の体力の測定評価を中心とした研究方法を用いて、身体の仕組み、あるいは運動の仕組みを理解し、どのようにすれば効果的、効率的にパフォーマンス（特に、競技パフォーマンス）を向上させられるかを学ぶ。最終的には、理論に裏付けられたトレーニング手段の構築を目指す。	博士：研 修士：研
高橋 繁浩 TAKAHASHI, SHIGEHIRO 教授 博士（体育学）	コンディショニング研究〈Sport Conditioning〉 競技選手にとってのコンディショニングとは、競技会に向けて心身の状態をより好ましい方向に整えることを目指すことである。そのための栄養、休養、リラクゼーション、トレーニングとしての身体活動などを含む、総合的で短期的な働きかけについて、実際の競技の場における事例や研究報告を提示しながら授業を展開していく。トレーニングの実践方法についても理解を深める。	博士：研 修士：研
藤林 献明 FUJIBAYASHI, NOBUAKI 准教授 博士（コーチング学）	トレーニング科学、コーチング学、身体教育学、実践研究 〈Training Science, Coaching Science, Physical Education, Practice Research〉 ①パフォーマンス構造の理解、②スポーツ動作を数値に置きかえて定量化、③選手やコーチの行動や語りをデータに置き換えた省察などを通して、スポーツトレーニングやコーチングを科学的視点からとらえるとともに、科学的知見に基づいてスポーツパフォーマンスを向上させる手法や思考を修得します。	博士：講 修士：研
眞鍋 芳明 MANABE, YOSHIAKI 准教授 博士（体育科学）	トレーニング科学、陸上競技、コーチング学〈Training Science, Athletics, Coaching Theory〉 ヒトが行うスポーツ活動を定量的に捉え、スポーツ技術を力学的に評価したり、新たな技術およびトレーニング方法考案の支援につなげたりすることが応用スポーツ科学分野における研究目標である。 スポーツという複合的实践領域において行われる研究は、様々な要因が極めて複雑に介在するため、その研究成果を直接的にトレーニング現場に利用することは困難である。しかしながら、トレーニング現場が抱える問題点や課題を単純化し、その糸口を掴むことがトレーニング科学を専攻する我々の責務である。	博士：講 修士：研

※担当について

- 博士：研……博士後期課程研究指導教員
 博士：講……博士後期課程講義担当教員
 修士：研……博士前期課程（修士課程）研究指導教員
 修士：講……博士前期課程（修士課程）講義のみ担当教員

教員に関する詳細は以下↓から検索できます。

中京大学公式ホームページ→「中京大学研究者業績データベース」
<https://www.chukyo-u.ac.jp/>

学位授与件数（累計）

2019年度までの実績

※2020年 3月31日現在

研究科	専攻	修士	博士（課程）	博士（論文）
文学研究科	日本文学・日本語文化専攻	20	1	1
	歴史文化専攻	3	-	-
国際英語学研究科	国際英語学専攻	17	-	-
	英米文化学専攻	3	-	-
心理学研究科	実験・応用心理学専攻	36	4	4
	臨床・発達心理学専攻	202	7	6
社会学研究科	社会学専攻	39	11	0
法学研究科	法学専攻	290	3	0
経済学研究科	経済学専攻	160	4	2
	総合政策学専攻	20	0	0
経営学研究科	経営学専攻	172	15	0
情報科学研究科 * 2020年 4月廃止	情報科学専攻	256	-	-
	情報認知科学専攻	-	24	8
	メディア科学専攻	60	3	1
工学研究科	機械システム工学専攻	16	-	-
	電気電子工学専攻	9	-	-
	情報工学専攻	15	-	-
体育学研究科	体育学専攻	504	51	32

研究支援

授業補助者（TA）制度

学部の授業をサポートする授業補助者制度（ティーチング・アシスタント、以下 TA 制度）を実施しています。TA 制度の業務内容は、「教育指導者としてのトレーニングの機会（教育的配慮）」になることを前提とし、将来、研究者・教員等の進路への重要なキャリアとして位置づけられるものとしています。TA 制度はアルバイトとして雇用するため、時間数に応じた給与が支払われます。

リサーチ・アシスタント（RA）制度

リサーチ・アシスタント（以下 RA）とは、本学の研究科又は研究所等が行う研究プロジェクトに参画し、研究代表者（教員等）の指示に従い、当該研究の遂行に必要な研究補助業務に従事する者をいいます。RA 対象者は、本学大学院博士後期課程に在学者です。また、学生が受ける研究指導、授業等に支障が生じないよう、雇用期間及び就業時間に限度を設けています。

長期履修制度

職業を有している等の事情により、十分な学習・研究時間が確保できない場合、以下の専攻及び課程は 3 年間（又は 4 年間）での計画的な教育課程の履修を可能としています。

- 法学研究科 法学専攻 博士前期課程 …………… 3 年又は 4 年
- 経済学研究科 経済学専攻 博士前期課程 …………… 3 年
- スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻 博士前期課程 …………… 3 年

名古屋キャンパス総合資料室

文、国際英語、総合政策、経済、経営、国際の各学部・研究科所有の専門書や他大学との交換雑誌等を 1 カ所に集め、共同利用するために設けられた施設です。なお、蔵書としては、辞書、年鑑、白書、単行書、新聞のほか雑誌等を所蔵しており閲覧ができます。

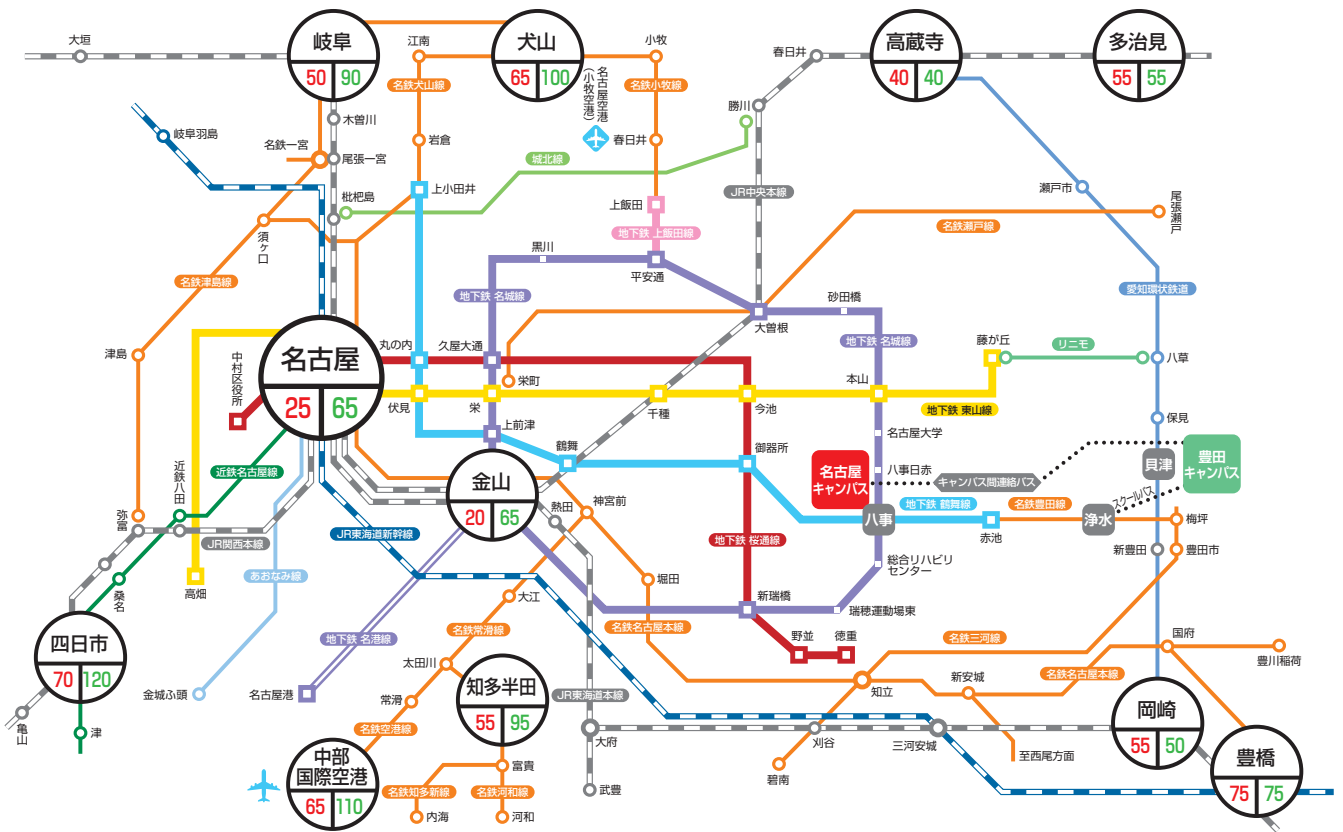


図書館

本学には、名古屋キャンパスに名古屋図書館、ライブラリーサービスセンター、法文学文献センター、豊田キャンパスに豊田図書館が設置されています。多くの学部・研究科を設置する総合大学の図書館として、多分野にわたる幅広い充実した蔵書を誇っています。特に、名古屋図書館には自動書庫（80 万冊収蔵可能）をはじめ、積層式書庫（約 9 万冊）、貴重本書庫等の機能的な設備を整備しています。



Access 主要駅からのアクセス

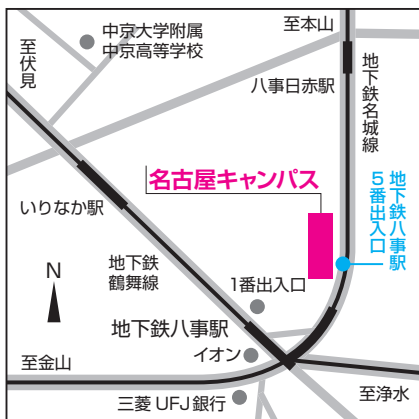


<p>名古屋キャンパス までの 所用時間</p>	<p>豊田キャンパス までの 所用時間</p>	地下鉄東山線	名鉄線	JR 在来線
		地下鉄名城線	近鉄名古屋線	JR 東海道新幹線
		地下鉄名港線	リニモ	
		地下鉄鶴舞線	愛知環状鉄道	
		地下鉄桜通線	あおなみ線	
		地下鉄上飯田線	城北線	

※所用時間は、電車の待ち合わせなどを考慮したおおよその時間です。
 乗り継ぎの時間を考え、余裕を持ってお出かけください。
 ※「キャンパス間連絡バス」は1日8便(4往復)運行しています。

NAGOYA CAMPUS

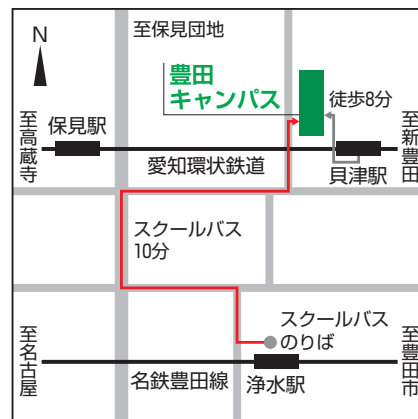
名古屋キャンパス
 〒466-8666
 愛知県名古屋市昭和区八事本町101-2



名古屋キャンパスは地下鉄「八事」駅5番出入口より直結です。

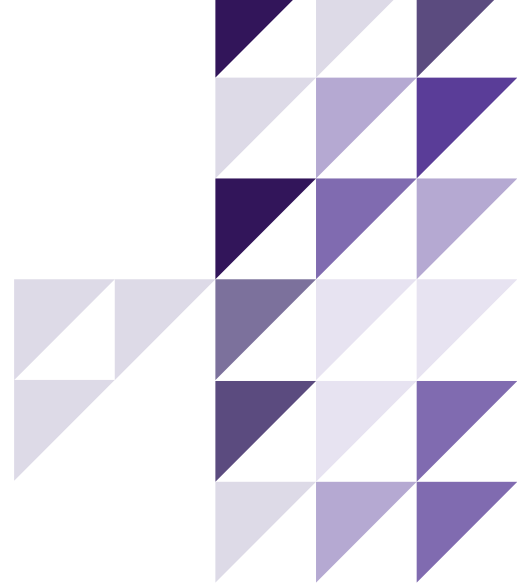
TOYOTA CAMPUS

豊田キャンパス
 〒470-0393
 愛知県豊田市貝津町床立101



名鉄豊田線「浄水」駅より豊田キャンパスまでスクールバス（無料）にて10分です。
 また、愛知環状鉄道「貝津」駅より徒歩8分です。
 ※スクールバスは「浄水」駅到着時間と授業開始時間を考慮し運行（日曜日・祝日は運休）。





中京大学 教学部大学院事務課

TEL (052)835-9863 〈受付時間〉 平日9:00~17:00

E-mail gs-office@ml.chukyo-u.ac.jp

名古屋キャンパス

文学研究科・国際英語学研究科・心理学研究科・法学研究科・経済学研究科
経営学研究科・工学研究科（機械システム工学専攻・電気電子工学専攻・工学専攻^{※2}）
〒466-8666 愛知県名古屋市昭和区八事本町101-2

豊田キャンパス

社会学研究科・スポーツ科学研究科^{※1}・工学研究科（情報工学専攻・工学専攻^{※2}）
〒470-0393 愛知県豊田市貝津町床立101

※1 2021年4月に体育学研究科をスポーツ科学研究科に名称変更する予定です。

※2 工学研究科工学専攻博士後期課程は研究の領域により通学するキャンパスが異なります。

★このパンフレットは2020年5月現在に確認できる内容に基づいて作成しています。専任教員や教員課程等変更の可能性があります。

